

令和5年度

なごや生物多様性保全活動協議会
活動報告書



令和6年4月



なごや生物多様性保全活動協議会

目次

はじめに	1	尾張サンショウウオ研究会	51
なごや生物多様性保全活動協議会(なごビオ)について	3	滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会	52
動物調査と保全対策部会	7	地球ハグ倶楽部	52
水辺の生きもの部会	11	中部蜘蛛懇談会	53
生物情報モニタリングデータベース部会	15	東谷山湿地群保全の会	53
里山林・社寺林部会	17	中志段味の自然を次世代に伝える会	54
両生類部会	21	「なごや環境大学」実行委員会	54
昆虫類部会	25	公益財団法人 名古屋港緑地保全協会	55
広報・PR事業	29	名古屋昆虫同好会	55
なごや生物多様性サマースクール2023	31	名古屋産業大学現代ビジネス学部・大学院 環境マネジメント研究科 長谷川研究室	56
なごや生きもの一斉調査2023 ～ハエトリグモ編～	33	名古屋自然観察会	56
池干し～隼人池(昭和区)～	37	名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち	57
定例会	39	名古屋市立大学大学院理学研究科附属 生物多様性研究センター	57
会員活動支援	40	なごやの森づくりパートナーシップ連絡会	58
名古屋昆虫同好会主催・特別講演会 (名古屋昆虫同好会)	41	NPO法人 なごや東山の森づくりの会	58
葉っぱはなぜこんな形なのか? ー植物の生きる戦略と森の生態系を考えるー (名古屋自然観察会)	42	NPO法人 日進野菜塾	59
地域活動支援	43	日本カメ自然誌研究会	59
細口池生きもの復活クラブ活動報告2023 (細口池生きもの復活クラブ)	44	日本野鳥の会愛知県支部	60
助成金事業	45	日本ワシタカ研究センター	60
花ハスの品種間の形態的特徴の違いと 遺資資源の保存収集源 (愛知県立佐屋高等学校 科学部)	46	花水緑の会	61
みつばちと命のサイクルから学ぶ ～BeeHappy∞Project～ (地球ハグ倶楽部)	47	隼人池を美しくする会	61
学校のビオトープ、緑地帯で行う 生物多様性に関する調査・体験・学習活動 (名古屋経済大学市邨高等学校)	48	ビオトープ・ネットワーク中部	62
会員団体の活動紹介・報告		特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会	62
相生山緑地自然観察会	49	三河淡水生物ネットワーク	63
「あいちの海」グリーンマップ	49	名東自然倶楽部	63
愛知守山自然の会	50	もりづくり会議	64
雨池ホタルの会	50	名城大学野生動物生態研究会	64
大高緑地湿地の会	51	矢田・庄内川をきれいにする会	65
		山崎川グリーンマップ	65
		四日市大学野生動物保全学研究室 (野呂研究室)	66

1. COP15開催、2030年に向けた生物多様性保全の目標

2022年、2023年は、生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）が開催されたことと、TNFD（Taskforce on Nature-related Financial Disclosures：自然関連財務情報開示タスクフォース）の最終版が公表されたことで、民間セクターによる生物多様性保全の取組を進める社会的仕組みが大きく進展した年となりました。

COP15では、2030年までの国際目標である「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、2030年までに生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ（自然再興）」が目標とされ、この実現のための定量的な目標として「30by30」（サーティ バイ サーティ：生物多様性条約締約国（194の国と地域）において、2030年までに陸と海のそれぞれ30%以上を保全する）の達成とそれに向けたOECM（Other Effective area-based Conservation Measures）の具現化が明示されました。日本においては、OECMを「自然共生サイト」と表現して、日本の事情に応じて企業緑地、屋上緑化、社寺林等の民有地も含めて新たに認定を進めていくこととなりました。

2023年10月6日（金）に、第一期の認定場所122か所（35都道府県）が公表され、最も多かった自治体は東京都で16箇所、次に多かったのが愛知県で11箇所でした。このうち半数近くは企業緑地や事業者が主体で保全活動している場所であること、また、地域の保全団体と連携した事例もあることは注目されます。名古屋市は、30by30を推進する有志連合である「生物多様性のための30by30アライアンス」に参加していることから、自然共生サイトの認定推進が期待されます。

2. 名古屋市の積極的な取組み

2023年10月28日（土）、第8回なごや生物多様性センターまつりのステージにて、先に挙げま

した「ネイチャーポジティブ」の実現に向け、政令指定都市で初となる「なごやネイチャーポジティブ宣言」を市長が行いました。また、宣言と併せて「生物多様なごや戦略実行計画2030」（以下、実行計画）を策定・公表したほか、「なごやネイチャーポジティブ」のシンボルマークの一般募集を行いました。この様に、名古屋市は、生物多様性保全に関して積極的な取組を進めています。「なごやネイチャーポジティブ宣言」は、かつての藤前干潟の保全のきっかけとなった「ごみ非常事態宣言」に続き、今回の宣言を生物多様性保全への転換点とする旨の力強い内容となっています。末尾のQRコードからぜひ宣言文をご一読頂ければと思います。

合わせて実行計画もぜひ注目して頂きたいと思います。この実行計画においては、先に紹介しました自然共生サイトについて、2030年までに5カ所以上の認定を受けることを目標として掲げています。その第一弾として、2023年度後期には、なごや東山の森の申請を行いました。なごや生物多様性保全活動協議会（以下、なごビオ）が蓄積している生物情報やモニタリングの仕組みなどが、なごやの自然共生サイトの認定に対して果たす役割は大きいことでしょう。なごビオは、名古屋市の自然共生サイトの認定を支援していきます。

3. よりローカルになる生物多様性保全と協議会の役割

地域ごとに生物多様性保全に取り組む重要性は別の側面からも高まっています。地域の生物多様性に関する情報は、近年の遺伝子解析技術の進歩により、より精緻化が進み、地域固有の遺伝子を持つ地域系統が、想像を超えて存在している可能性が開けてきています。その中には新種と認定され、地域で保全すべき重要な種と位置付けられる種も少なくありません。愛知県内においても、2022年には有尾目サンショウウオ科オワリサンショウウオが、2023年にはトウ

カイハルリンドウといった新種が発表されました。長野県、岐阜県、三重県、静岡県などにおいては、植物のトウバナ属、セントウソウ属、タニウツギ属、ネコノメソウ属等、多様な属において近々新種が発表される様です。専門家によって意見は分かれますが、従来から東海地方に固有か準固有の植物である「東海丘陵要素」15種やカメムシ目タイコウチ科ヒメタイコウチなどが注目されています。こうした地域系統の解明は今後も進み、生物多様性は各地域で保全する必要性がますます高まります。このようなことから、生物多様性保全活動には、地域の実情に詳しい市民、保全団体が参加することで、より効果的な情報収集や保全活動となるため、国際的にも専門家と市民（個人、保全団体、地域の事業者等）が連携して生物情報の科学的な収集や保全活動を行う「シチズンサイエンス(citizen science)」が盛り上がりを見せています。

なごビオは、皆様ご存知の様に、全国的にも早くから「シチズンサイエンス」を始めた組織でもあります。今や某テレビ番組で有名になった「ため池の水を全部抜く」調査（なごビオでは、在来種・外来種の生息状況の確認、外来種防除の保全活動、及びその後のモニタリング活動も行う）は、なごビオの前身の組織で2008年から始めて、これまでに18の池で実施して、4,000人以上の方々に参加して頂きました。また、「市民生きもの一斉調査」は、例年、500名~1,000名近くの方に参加して頂く、全国的にも先進的なシチズンサイエンスの活動です。2011年から毎年実施して、13回を数え、これまでに4,000人以上の方々に参加頂きました。

4. なごビオの動向

なごビオは、2021年度の両生類部会の発足に続き、2022年度は昆虫類部会が発足しました。これで、哺乳類・爬虫類を主な対象とする動物部会（動物調査と保全対策部会）、主に水生生物（魚類・甲殻類・水生植物等）を対象とする水辺

部会（水辺の生きもの部会）、主に陸生植物を対象とする里山林・社寺林部会、主に両生類を対象とする両生類部会、そして、昆虫を対象とする昆虫類部会が揃い、加えて既存資料や調査結果のデジタル化と公開を行うデータベース部会（生物情報モニタリングデータベース部会）という体制になりました。こうした部会活動で得られた多くの生物情報は、2025年度に発刊予定の「レッドデータブックなごや2025」に反映されます。

本稿で紹介しました国際目標や名古屋市の実行計画における目標の達成、そしてその先にある生物多様性と共にある都市の実現には、公共セクターだけでなく、市民、NPO、保全団体、そして、企業等の民間セクターの生物多様性保全への参画が必要不可欠です。中でも、事業者との連携はタイミングとしても重要になるため、なごビオにおいても、具体的な連携を進めていきたいと考えています。

なごビオが、多様な主体の意見を取り入れ、時宜に適した活動を展開できる強みを見直し、一層の活動の充実を図っていききたいと考えています。これからも多くの皆様からのご支援、ご参加、そしてご指導を賜りたいと存じます。

*なごやネイチャーポジティブ宣言



*生物多様性なごや戦略実行計画2030



なごや生物多様性保全活動協議会（なごビオ）について

協議会（なごビオ）の設立

名古屋市には東部丘陵地を中心に110箇所ものため池が現存しています。しかしながら、都市農業の衰退により、ため池の主な役割が「利水」から「治水」に変化しました。そのため、人とため池との係わりが希薄化したことや、外来種の侵入によって在来の生きものが減少したことで、ため池における生態系の劣化が進んでいると言われていました。

COP10開催決定を契機に、平成20（2008）年度から3年間、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」を設立し、地域住民・市民団体・行政が協働で、ため池の生物調査や保全活動を行ってきました。

平成23（2011）年度からは、ため池に限らず他の生態系まで対象範囲を広げるとともに、侵略的外来種の防除に力を入れるなど、活動内容を拡充するため、「なごやため池生物多様性保全協議会」の組織体制と人材を拡充し、「なごや生物多様性保全活動協議会（なごビオ）」（以下「なごビオ」という）を平成23年5月15日に設立しました。

なごビオの設立目的は、なごやに生息・生育する生物及びその環境を継続的に調査し、生物多様性の現状を把握するとともに、外来種防除などを通し、身近な自然の保全を実践することです。

構成

なごビオは令和6（2024）年3月末現在、42の団体会員、28名の個人会員、名古屋市で構成しています。1年間の事業計画や事業報告については、総会にて議決します。

また、役員（会長・副会長3名・監事2名）と幹事（15名）を置き、幹事会にて運営に係る事項について協議しています。

事業の実施にあたっては、活動分野ごとに部

会を設置し、部会ごとに調査内容・方法・日程・人員等の計画を作成し、実施しています。事務局は、各部会や実行委員会の実施する調査や会議、イベントについて、準備・連絡調整等の役割を担っています。

市民の方を対象に、なごビオが実施する調査やイベントなどへ参加いただく仕組みとして、「なごや市民生きもの調査員」を募集しています。登録いただいた方には、イベントなどの募集情報を毎月案内しています。（令和6年3月13日現在・登録者数1,349名）

活動内容

なごビオは設立目的に基づき、市民・専門家・行政の協働で、生物多様性に関する調査・保全活動を実施しています。

活動を支える事務局と拠点は「名古屋市環境局なごや生物多様性センター」が担っており、名古屋市の負担金により事業を実施しています。

なごビオが令和5（2023）年度に取り組んだ主な調査・保全活動は、アライグマ・ミシシippアカミミガメ・クビアカツヤカミキリ・オオキンケイギクなどの外来種対策、市内の里山・緑地・ため池などにおける生物調査等を実施しました。

また、身近な自然や生きものに一層の関心をもっていただく機会として、7月及び8月に小中学生を対象とした「なごや生物多様性サマースクール2023」を、9月には「なごや生きもの一斉調査2023」として、ハエトリグモの調査を市民のみなさんと共に行いました。

調査・保全活動を通して得た結果については、収集・蓄積し今後に生かすため、生物情報モニタリングデータベースの構築を進めています。

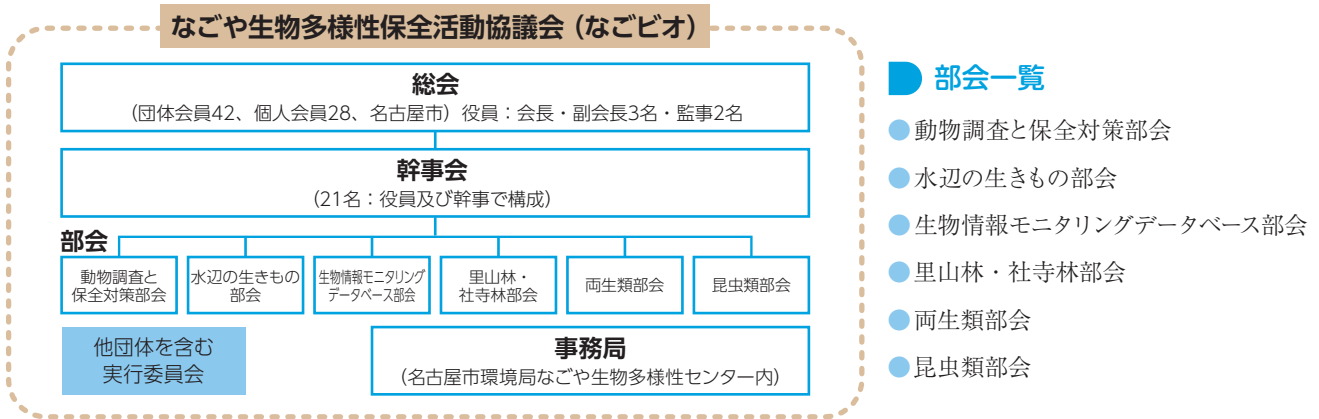
また、なごビオの取り組みを発信する場として、毎年5月には活動報告会を開催しています。

なごビオは、令和3年に設立10周年を迎えました。この数年間は、新型コロナウイルスによ

る未曾有の社会状況の中で、様々な場面で活動の制限を余儀なくされましたが、これを機に新たな部会である両生類部会や昆虫類部会を設置

するなど、組織の改編等にも取り組み、なごやの生物多様性保全を担う組織としての歩みを止めることなく邁進してきました。

令和5年度なごビオの組織・構成



幹事一覧

(令和6年3月末現在・敬称略)

氏名	所属等	備考
伊藤 健太郎	名古屋昆虫同好会	
伊藤 隆之	名古屋市環境局環境企画部主幹 (生物多様性の保全担当)	
梅本 洋子	花水緑の会	副会長
大沼 淳一	個人会員 (専門分野/水質)	
大矢 美紀	山崎川グリーンマップ	
熊澤 慶伯	名古屋市立大学大学院理学研究科生物多様性研究センター・教授	
小菅 崇之	個人会員 (専門分野/水生植物)	副会長
齋藤 牧	なごや環境大学実行委員会	監事
榊原 靖	個人会員 (専門分野/水生生物)	
佐藤 裕美子	名古屋自然観察会	
高木 和彦	名東自然倶楽部	
瀧川 正子	NPO法人 なごや東山の森づくりの会	監事
戸田 尚希	名古屋昆虫同好会	
富田 啓介	愛知学院大学教養部准教授	
野中 賢輔	なごや外来種を考える会	
野呂 達哉	四日市大学環境情報学部野生動物保全学研究室特任准教授	
橋本 啓史	名城大学農学部生物環境科学科准教授	副会長
長谷川 泰洋	名古屋産業大学現代ビジネス学部・大学院環境マネジメント研究科長谷川研究室	会長
藤谷 武史	尾張サンショウウオ研究会	
増田 理子	名古屋工業大学社会工学専攻教授	
矢部 隆	日本カメ自然誌研究会	

なごや生物多様性保全活動協議会について

● 会員一覧

● 団体会員

団体名
相生山緑地自然観察会
「あいちの海」グリーンマップ
愛知守山自然の会
雨池ホタルの会
荒池ふるさとクラブ
伊勢・三河湾流域ネットワーク
大高竹の会
大高緑地湿地の会
尾張サンショウウオ研究会
白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会
雑木林研究会
滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会
地球ハグ倶楽部
中部蜘蛛懇談会
東谷山湿地群保全の会
中志段味の自然を次世代に伝える会
なごや環境大学実行委員会
公益財団法人 名古屋港緑地保全協会
名古屋昆虫同好会
名古屋産業大学現代ビジネス学部・大学院環境マネジメント研究科長谷川研究室
名古屋自然観察会（愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部）
名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち
名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科生物多様性研究センター
なごや森づくりパートナーシップ連絡会
NPO法人 なごや東山の森づくりの会
NPO法人 日進野菜塾
日本カメ自然誌研究会
日本野鳥の会愛知県支部
日本ワシタカ研究センター
花水緑の会
隼人池を美しくする会
ビオトープ・ネットワーク中部
NPO法人 藤前干潟を守る会
三河淡水生物ネットワーク
名東自然観察会
名東自然倶楽部
もりづくり会議
守山リス研究会
野生動物生態研究会
矢田・庄内川をきれいにする会
山崎川グリーンマップ
四日市大学環境情報学部野生生物保全学研究室

(令和6年3月末現在・敬称略)

● 個人会員

氏名
飯尾 俊介
伊東 英幸
今井 洸貴
太田 貴大
大塚 徹
大沼 淳一
加藤 航大
川瀬 基弘
國枝 奎吾
小菅 崇之
齊藤 毅
榊原 靖
櫻谷 保之
佐藤 裕美子
高木 順夫
高山 博好
土山 ふみ
寺本 匡寛
研谷 厚
富田 啓介
野中 賢輔
橋本 啓史
早川 凌平
伴 知幾
松沢 孝晋
宮田 裕貴
武藤 信一郎
守谷 茂樹

● 名古屋市

なごや生物多様性保全活動協議会事務局を、なごや生物多様性センター内に置く。

● 総会の開催

総会	日付	審議事項
通常総会	5月14日	1 令和4年度事業報告について 2 令和4年度決算報告について 3 令和4年度会計監査報告について 4 令和5年度役員選出について 5 令和5年度事業計画（案）について 6 令和5年度収支予算（案）について 7 規約改正について
臨時総会	1月10日	1 役員（監事）の選任

● 幹事会の開催

回	日付	協議・報告事項
第1回	5月25日	1 部会事業報告 2 協力金規程 3 令和5年度パンフレット 4 押印の廃止 5 新規会員
第2回	6月22日	1 部会事業報告 2 新規会員 3 資料編の送付先 4 環境デーなごや 5 会員活動支援
第3回	7月27日	1 部会事業報告 2 個人会員の承認基準（案） 3 環境デーなごや展示（案） 4 令和5年度パンフレット（案）
第4回	8月24日	1 部会事業報告 2 会員承認規程 3 定例会 4 環境デーなごや展示（案） 5 令和5年度パンフレット（案）
第5回	10月5日	1 部会事業報告 2 会員承認規程 3 議決権についての意見照会 4 センターまつり展示（案） 5 資料編の取り扱い 6 定例会
第6回	10月26日	1 部会事業報告 2 議決権についての意見照会 3 令和4年度なごBioの実績
第7回	11月30日	1 部会事業報告 2 令和6年度予算の枠組み 3 令和6年度総会及び令和5年度活動報告会 4 令和4年度資料編 5 監事の選任 6 新規会員 7 会員活動支援 8 総会の議決権
第8回	1月25日	1 部会事業報告 2 令和6年度予算等 3 令和5年度活動報告会の講師 4 令和6年度一斉調査の対象種 5 猫ヶ洞池ゴミ拾い 6 新規会員
第9回	2月22日	1 部会事業報告 2 令和6年度予算 3 令和6年度一斉調査の対象種 4 いきものづくし

動物調査と保全対策部会

部会長 野呂 達哉・曾根 啓子・宇地原 永吉

はじめに

市内と周辺地域に生息する野生動物について、部会員と有志（学生、専門家、大学研究室、保全団体等）が協力して、種ごとの分布状況や生息環境を明らかにすることを目的としている。

また、調査で採集、捕獲した生物や駆除等で捕獲した生物について、計測や解剖、標本化を実施している。それらの結果や標本については「なごや生物多様性センター」に収蔵・蓄積している。

さらに、これらの結果や資料を基に、外来種の防除や在来種の保護、保全を計画、実施している。

その他、活動内容や成果を伝える啓発、展示、環境学習、調査実習、大学生の卒業論文等にも協力している。

主な活動内容

- カメ類調査とアカミミガメ等外来カメ類の防除
- ニホンイシガメの保全
- 哺乳類調査とアライグマ・ヌートリア等外来哺乳類の防除
- コウモリ類の調査と保全
- 標本の作製と分析

今年度の活動記録

●カメ類調査とアカミミガメ等外来カメ類の防除

内容 籠ワナによる捕獲調査は、以下の場所と日程で実施した。

塚ノ杵池（名東区）：7月16日、17日

隼人池（昭和区）：10月30日、31日



籠ワナによる捕獲調査（塚ノ杵池）



籠ワナによる捕獲調査（隼人池）

内容 浮島型カメ捕獲装置による捕獲調査は、以下の場所と日程で実施した。

二ツ池（守山区）：7月2日、8月13日、
9月3日、11月12日

蛇池（西区）：7月26日

隼人池（昭和区）：9月11日、10月30日



浮島型ワナによる捕獲調査（隼人池）

●ニホンイシガメの保全

内容 名古屋市のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されているニホンイシガメについて、保全のための繁殖を試みている。卵はインキュベーターで温度を調整し、孵化する幼体の性別を管理している。これまでに、塚ノ杵池、隼人池、鏡ヶ池産の個体が繁殖に成功している。現在、孵化した幼体は、なごや生物多様性センターで管理して今後、現地に放逐予定である。

なごや生物多様性センター：6月28日、30日、
8月14日、23日



産卵した卵の計測（なごや生物多様性センター）



カメ類の飼養エリア（なごや生物多様性センター）

●哺乳類調査とアライグマ・ヌートリア等外来哺乳類の防除

1. センサーカメラによる哺乳類調査

内容 市内における哺乳類の生息状況を把握するためにセンサーカメラによるモニタリング調査を小幡緑地、猪高緑地、平和公園、東山動物園、東山公園南部、大高緑地で実施した。

基本的に月に1回SDカードを回収したが、猪高緑地では、イエネコの個体識別を行うために動画撮影を行い、SDカードは週に1回収した。センサーカメラの設置は前年度から継続して行った。



センサーカメラの設置（猪高緑地）

連携 花水緑の会、愛知守山自然の会、名古屋大学未来材料・システム研究所林研究室、四日市大学野生動物保全学研究室、名東自然倶楽部、名古屋市内の野良猫をゼロにする会。

2. 環境DNAによる哺乳類調査

内容 環境DNAによる哺乳類の生息調査を試みた。分析に使用する環境水の採水は、コウモリ類のねぐらとなっている穴の出入口に溜まった水と哺乳類の生息地域内にある河川または細流から行った。DNAの抽出と分析は専門業者に委託した。

採水場所：コウモリ類のねぐら（才井戸流の洞穴、富永ダム）、河川（庄内川流域）。

才井戸流：12月12日

富永ダム（愛知県豊田市）：11月26日

庄内川流域：2024年2～3月を予定。

連携 四日市大学野生動物保全学研究室。

●コウモリ類の調査と保全

1. 音声モニタリング

内容 コウモリ専用の録音マイクを車に搭載し、名古屋市内および名古屋市近郊においてコウモリ類の音声モニタリングを実施した。

才井戸流のコウモリ類ねぐらには自動録音装置を設置した。

みどりが丘公園：4月20日

徳川園：6月7日、6月13日、6月19日

富永ダム：6月10日、7月2日

庄内緑地：6月13日

鶴舞公園：6月19日

名古屋城：6月19日、10月12日、11月23日

牧野ヶ池緑地：6月27日

天白公園：6月27日

島田緑地：6月27日

荒池：6月27日

庄内川（守山IC付近）：10月12日

庄内川（中川区当地町）：11月4日

才井戸流：12月12日



自動録音装置の設置（才井戸流）

連携 名城大学野生動物生態研究会、四日市大学野生動物保全学研究室。

●標本の作製と分析

1. 哺乳類の解剖と標本化

内容 なごや生物多様性センターで収集している動物（アライグマ、ハクビシン、ヌートリア、シベリアイタチ等）についての解剖と標本作製を実施した。作製した標本をなごや生物多様性センターに収蔵した。

実施日

名城大学野生動物生態研究会：

1回目（4月29日）、2回目（6月10日）、

3回目（7月9日）、4回目（10月15日）、

5回目（12月10日）



アライグマの解剖と標本作製（なごや生物多様性センター）

連携 名城大学野生動物生態研究会、なごや生物多様性センター

2. カメ類の骨格標本作製

内容 部会事業で収取された在来カメ類（ニホンイシガメ）について、骨格標本の作製を行った。

実施日

8月22日、23日、25日



ニホンイシガメの骨格の整形（なごや生物多様性センター）

はじめに

当部会では、川やため池などに生息する魚や水草などの生きものを対象に、調査や保全、普及啓発を行なっている。

主な活動内容

- 池干しモニタリング調査
- 川の生きもの調査と次世代育成
- なごやの希少種対策と保全
- 外来種対策及び普及啓発

今年度の活動記録

事業1 池干しモニタリング調査

●平手池（緑区） 4月30日

池の工事が計画されている緑区の平手池について、工事前の水生生物調査を行なった。魚類はフナなどが見られたものの、種数、個体数が少ないことが考えられた。



図1. 種数と個体数を記録する様子

●すり鉢池（名東区） 5月25日

2020年に行われた池干しの事後調査を行なった。池干し前には確認されていなかったカダヤシの増加と、ミナミメダカの大幅な減少が確認された。メダカについては数年内にすり鉢池から絶滅することも考えられる。

●茶屋ヶ坂池（千種区） 6月26日

2012年池干しが行われており、約10年後のモニタリング調査を行なった。池干し時に駆除したオオクチバスとゲンゴロウブナは、目視・タモ網・モンドリ調査で確認されなかった。

●ガマ池（西区） 7月26日

2019年の池干しの事後調査を行なった。池干し時には在来種の一時保護を行い、保全に務めたが、ヨシノボリなど一部の在来種は今年度も生息数の回復は確認できなかった。池干しや直後に行われた工事の影響も考えられる。

●滝水池（守山区） 8月19日

流出する河川が無いいためか魚類は見られなかった。スジエビとヒメタイコウチは多く見られた。池は泥が1 m以上堆積しているとみられ、立ち入りは困難であった。

●笥池（守山区） 8月21日

規模の大きいため池であるが、釣り人が多く出入りしており、オオクチバス、ブルーギルなどの外来種が大多数を占めていた。種は不明であるが、大型の二枚貝の死骸が3個体湖岸で見つかった。



図2. 種不明の二枚貝

●隼人池（昭和区） 9月11日

11月19日に池干しが行われるにあたり、事前調査を行い、モツゴやブルーギルなどを確認した。また、水深や泥厚、作業動線などを確認し、池干し当日の子どもたちの受け入れや、在来種の輸送計画の立案などを行なった。

●蛇池（西区） 10月8日

2022年に行われた蛇池の事後調査を行なった。在来種ではモツゴ、スジエビ、ミズカマキリが確認された。また、地元団体からの要望であったハスが復活していること確認した。

事業2 川の生きもの調査と次世代育成

●植田川（天白区） 月1回定例

名城大学のサークルである野生動物生態研究会との協働で、タモ網による植田川の水生生物調査を行うとともに、サークル内の初心者に対して調査技術を伝えた。



図3. 植田川調査

●液浸標本の管理と作成（センター内）

野生動物生態研究会との協働で、部会の調査で得た魚類や甲殻類の液浸標本を作成した。また、過去に作成した標本の液交換やラベルの管理を行なった。6月21日、6月22日、7月19日、7月24日、9月5日、1月26日、2月6日、3月7日に実施した。

●荒子川（中川区） 6月24日

温排水が流れる荒子川ではナイルティラピアが定着しており、今年度も生息を確認した。また、コウライモロコヤカマツカが見られた。

●戸田川（中川区） 7月15日

水田地帯を流れる戸田川の調査を行った。海からの距離が近いこともあり、テナガエビが多く捕獲されたほか、ヌマチチブや旧トウヨシノボリ類などが見られた。

●山崎川（瑞穂区） 7月22日

山崎川グリーンマップとの協働で、「夏休み生き物観察会」において捕獲された生きもの調査を行なった。ウキゴリやドジョウが見られたほか、外来種のグッピーが1個体見つかった。

●庄内川（守山区） 10月1日

吉根堰堤や下志段味橋周辺にて、投網やタモ網などを用いて調査を行った。ギギやアブラハヤなどが見られた。また、目撃情報のあるコクチバスは採捕はできなかった。



図4. 吉根堰堤下流での調査

水辺の生きものの部会

事業3 なごやの希少種対策と保全

●水生植物域外保全（センター内） 4月19日

センターの屋外で維持している水生植物の植え替え、ヘドロの除去などを行なった。また、今年度より平和公園の水田雑草の域外保全も開始し、希少種4種の栽培に成功した。

4月19日、5月19日、5月24日に作業を行った。



図5. 水生植物の管理作業

●塚ノ杵池（名東区） 5月10日、5月25日

池の水を人為的に変動させることにより、水際の植生を回復させ、生物多様性を高める事を目標とした「エコトーンプロジェクト」を今年度より名東自然倶楽部などと協働で実施した。10日、25日には魚類、甲殻類などの調査を行なった。

●魚類の域外保全（港区） 6月4日

戸田川緑地農業科学館で域外保全しているカワバタモロコの現状確認を行なった。親個体を飼育している屋上の水槽からは45個体が確認された。また、前年度に水槽から卵を採集し、別水槽で管理することで世代交代に成功していた。この水槽でも数十匹が確認された。



図6. カワバタモロコ（戸田川緑地農業科学館）

●塚ノ杵池（名東区） 6月23日

エコトーンプロジェクトの水位調整の効果で埋土種子から発芽した水生植物の調査を行なった。また、名東自然倶楽部との情報交換、草刈り、水生植物の部分的な移植を行なった。



図7. 塚ノ杵池のエコトーン

●水田雑草調査（千種区） 8月27日

なごや東山の森づくりの会と協働で希少な水田雑草の調査を行った。また、森づくりの会に対して水田雑草の解説を行ないつつ、アメリカザリガニの防除方法を議論した。

●名古屋城のオニバス調査（北区） 9月29日

名古屋城外堀での調査を2012年から続けている。2023年は葉の直径が175cmになる株が見られたほか、株数も多く、調査開始以降で最もオニバスが繁茂した年となった。



図8. 葉を展開するオニバス（名古屋城外堀）

●隼人池在来種の一時保護（センター内）

11月19日に行われた隼人池の池干しで採捕したモツゴやフナなどの在来種を、一時的になごや生物多様性センターで保護した。保護した在来種は2024年2月18日に隼人池に放流された。

事業4 外来種対策および普及啓発

●園芸スイレン駆除（千種区） 11月3日

前年度に引き続き、なごや東山の森づくりの会や、千種ライオンズクラブとの協働で駆除活動を実施した。ライオンズクラブの方々への説明や、テレビ局の取材対応などを行った。

●園芸スイレン駆除（名東区） 12月10日

塚ノ杵池エコトーンプロジェクトの一環として、駆除活動を行なった。塚ノ杵池での駆除は初めての試みであるため、効率の良い駆除方法や駆除地点の模索を行なった。野生動物生態研究会の参加もあり、次年度更なる駆除に向けて

準備をしている。



図9. 園芸スイレンの根茎（塚ノ杵池）

今後について

今年度の部会活動は、名城大学の学生や新規部会員が増え、今まで行なってきた次世代育成の効果が現れてきていることを実感した。次年度は増加した学生への対応として、勉強会などの交流の場を整える計画を立てている。

近年は行政機関から工事などに関する事前情報が入るようになり、年度末にも守山区のため池で在来種の一時保護を実施する予定である。部会として蓄積してきた知識や経験を活用し、今後も同様に対策を行っていく。

次年度のなごやの希少種対策について、塚ノ杵池エコトーンプロジェクトは2年目に入り、さらなる植生の回復と、それに伴う水生生物の増加に期待がかかる。また、希少なドジョウ類の調査やカワバタモロコの保全作業など、緊急性の高い活動も活発に行っていく。

はじめに

生物情報モニタリングデータベース部会では、なごびオの行う生物調査・既存文献・市民の通報などから得たなごやの生物多様性の現況についての情報を集約・一括管理するとともに、集約された生物情報を広く提供するツールとして活用することを目的として、平成23年度からデータベースの構築を行っている。

主な活動内容

生物情報の収集・登録・発信として、なごや生物多様性センターのウェブサイト「なごや生きものマップ」を通じた市民からの生物情報の収集、なごびオの各部会や一斉調査等の結果のデータベースへの登録、情報が集まった生物の分布図のウェブサイト上での提供を行っている。また、昔の写真・フィルムのデジタルデータ化およびデータベース作成、空中写真の蓄積も行っている。

生物情報モニタリングデータベースのページ
<http://www.bdnagoya.jp/creature/database.html>

今年度の活動記録

●部会の開催

今年度は2回の部会を開催した。

●生物情報の収集・登録・発信

○市民からの生物情報の収集

昨年度から運用されている、なごや生物多様性センターの新しいデータベース「なごや生きものマップ」(図1)を使い、広く市民から目撃情報の募集を行った。



図1. なごや生物多様性センターの新しいデータベース (https://ikimono.city.nagoya.jp/ikimono_map/)

この新しいデータベースでは募集する生物情報は特定種に限っていないが、特にオオキンケイギク(5月)、キツネ(5月)、ムネアカハラビロカマキリとハラビロカマキリ(8月)、タヌキやハクビシンなどの哺乳類(10月)について、それぞれのよく見られる季節に、市民やなごびオ会員・市民調査員に情報提供を呼びかけた。

その結果、令和5年1月から令和5年12月末までに80種160件の情報が寄せられた。件数は昨年度からほぼ倍増であった。種別では多い順にキツネの23件、アライグマの21件、オオキンケイギクの15件、タヌキ5件、ハクビシン5件であった。分類群別で見ると、哺乳類がもっとも多く56件であった(表1)。呼びかけを行ったことや、報告時に写真が必須でなくなったことで、哺乳類の情報が報告されやすくなったと考えられる。過去のものや、なごびオやなごや生物多様性センターによる捕獲記録も含めたアライグマの捕獲・目撃情報マップを図2に示した。

表1. 寄せられた情報の分類群別件数（多い順）

分類群	件数
哺乳類	56
種子植物	40
昆虫類	30
鳥類	14
は虫類	8
その他	6
魚類	2
両生類	1
シダ植物	0
計	157

トにも掲載予定。

○写真・フィルムのデジタルデータ化およびデータベース作成

寄贈された過去のなごやの自然の写真・フィルムを活用するため、写真・フィルムのデジタルデータ化を進めている。今年度は570枚の写真のデジタル化を進め、浜島繁隆氏より貸出いただいた写真のデジタル化を完了した。

○空中写真の蓄積（ドローンによる空撮）

今年度は両生類部会や里山林・社寺林部会の要望を受け、東山公園の東山スカイタワー東側の樹林の撮影を11月20日に実施した（図3）。

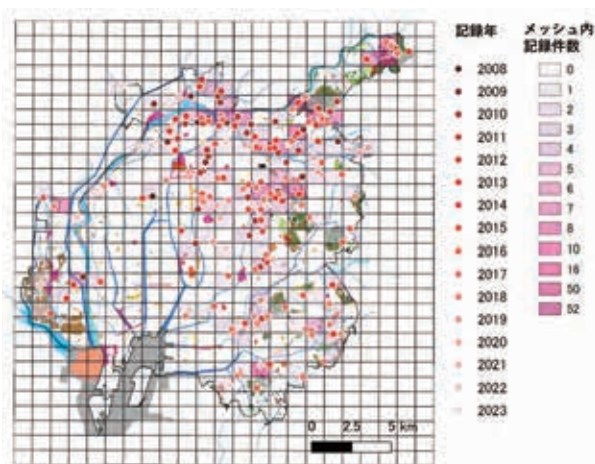


図2. アライグマの捕獲・目撃情報マップ

○なごビオの調査結果等のデータベースへの登録

名古屋市環境局の「名古屋市内の生態系に重要な場所の可視化事業」の一環で、過去のなごビオ部会活動で得られた生物データを、データベース未登録のものも含めて市に提供したが、年度末までにデータベースに登録しやすい形に整理して戻される予定であり、データベースの充実が見込まれる。

○生物情報のウェブサイト上での提供

今年度は図2の通り、アライグマの捕獲・目撃情報マップを作成した。なごビオウェブサイ



図3. 東山スカイタワー東部の樹林の空中写真

今後について

今後も生物情報および写真の収集・登録・発信をおこなっていく。また、情報がある程度集まった種については、種ごとの分布図を作成し、報告書やウェブサイト等で紹介していきたい。

なお、次年度のドローンによる空撮対象地は、引き続き東山公園の一部で検討している。

里山林・社寺林部会

長谷川 泰洋 (名古屋産業大学)・橋本 啓史 (名城大学)・西部 めぐみ (なごや生物多様性センター)

はじめに

里山林・社寺林部会は、本年度で7年目となりました。本部会は、里山林や社寺林等の樹林地を対象として、その保全管理の効果や植生の質（郷土種の保全状況、希少種、巨樹の分布・生育適地等）の調査を進め、より生物多様性保全に資する保全手法を開発し、啓発に資する知見を集積することを目的にしています。

部会事業は、昨年度の活動を引き継ぎ、事業①里山・社寺林における植物相、植生調査、事業②希少種の生育環境調査、事業③巨樹の生育状況調査、事業④伐採木の樹幹解析、萌芽調査、事業⑤生物多様性保全、普及に関するアンケート調査を行い、そして、事業⑥日常生活圏における生物情報の普及啓発手法の検討を行いました。

事業①及び③では、緑区、守山区を主な調査地として、区別に集中的に調査を行い、成果の可視化を図るとともに、区土木事務所や地元保全団体等の地域団体との情報共有を図りました。事業②では、市内で適湿で生物多様性が高い自然林の指標種となりうるカンアオイ類の生育環境を明らかにするため、土壌含水率・地温の年間の変動を明らかにするための調査を始めました。

これらの主な成果として、市内では稀なサクラバハノキの群生地やヘビノボラズの産地、市内で未記録のクロキの巨木（自生かどうかは定かではない）、オオバチドメ、カギカズラ、ウラボシノコギリシダ、ナガバノイタチシダを確認するなど、生物多様性保全の観点から重要な成果が得られました。

本報告では、トピックとなる成果が得られた事業①、②、③、⑥の活動状況と主な成果、活動の様子を報告します。

令和5年度の主な活動と成果

事業①：里山・社寺林における植物相、植生調査 事業③：巨樹の生育状況調査

本年度は緑区、守山区の主要な樹林地や元ため池が残る樹林地を対象として、フロラリスト及び代表地点における植生調査を行いました。特に本年度から守山区の東谷山およびその周辺地域の調査も始めました。

期 間 2023年4月～2024年2月

場 所 平手池（4/30、5/4）、水主ヶ池（5/4）、東禅寺中池・東禅寺上池・風越池（5/8）、東谷山（5/20、7/24、8/4、9/4、11/16、1/22）、大高緑地（6/3）、新海池・大高城跡（7/10）、相生山（7/15）、琵琶ヶ池（8/8）、蝮池街園（8/8、10/23）、翠松園緑地・平池公園（8/17）、滝水池（8/19）、笕池（8/21）、水広公園（10/23）、猪高緑地（11/16、2/5）、鳴海公園・古鳴海八幡社・細根山（12/27）、みどりが丘公園・勅使池（1/15）

活動回数 17回 ※1/15まで含む

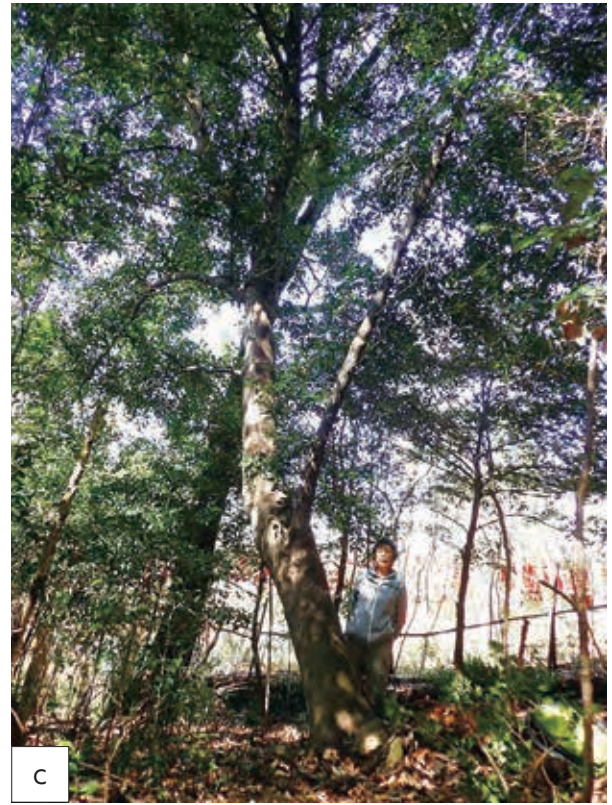
参加人数 延べ59人 ※1/15まで含む

成 果 緑区、守山区の調査は継続中のため、合計の種数はまだ未確定ですが、各区で400-500種程度のフロラリストを作成中です。

今年度も、これまでに名古屋市内で記録がない複数の種を確認しました。市内で未記録の種としてクロキ（図1）、オオバチドメ（図2）、カギカズラ、ウラボシノコギリシダ（図3）、ナガバノイタチシダなどを確認しました。クロキは、暖地性で中国地方以西の樹木のため、本個体が自生かどうかは定かではありませんが、樹高約15m、胸高直径42.6cmと本種としては大変大きな個体です。環境省の巨樹・巨木林データベースに唯一登録されている福岡県大野城市の個体（幹周130cm：胸高直径に換算すると41.3cm）と

同等のサイズです。このサイズやその生育地が貧栄養な丘陵地であることから、数百年～400年程度の樹齢が想定されるため、大変貴重な個体と言えます。他3種はやや暖地性の植物で、市内でこれらの種が新たに確認されたことから、温暖化の影響や都市のヒートアイランド現象などの影響が考えられます。

また、希少な生態系として、高木層に達するサクラバハンノキが100個体程ありそうな数ヘクタールのサクラバハンノキの群生地を確認しました(図4)。この場所では他に、市内で極めて稀なヘビノボラズやシデコブシなども確認されました。



c

図1 クロキ (a) 枝葉、(b) 花、(c) 全体の様子



図2 オオバチドメ



図3 ウラボシノコギリシダ



図4 ヘビノボラズなども見られる
サクラバハンノキ林

事業②：希少種の生育環境調査

(1) カンアオイ類

市内のカンアオイ類は、ヒメカンアオイ（小型種をゼニバサイシン言い、東海地方に多い）とスズカカンアオイが確認されています。カンアオイ類の種子はアリ散布のため、移動が大変遅く、その生育地は長らく自然環境が維持されてきたことの証左となります。一昨年度に市内の網羅的な分布、個体数等の調査を進め、市内の主要な生育地を明らかにしました。昨年度からは、その中から、保全活動の実践につなげられる場所を選定し、カンアオイ類の生育にとって重要な土壌水分量、地温の年変動を記録する調査を、天白溪、相生山緑地、大高緑地で開始しました。生育地、非生育地（谷側）、非生育地

（尾根側）で計測を行い、カンアオイ類の生育適地の環境特性を明らかにします。

途中経過となりますが、2023年2月から2024年2月までの天白溪と大高緑地のカンアオイ類生育地の土壌水分量の結果は図5の通りとなっています。生育地では非生育地（尾根側）よりも土壌水分量が高めに推移する傾向が伺えます。また、非生育地（谷側）と比較すると、乾湿の差が大きい傾向が伺えます。土壌水分が必要でありながら、水はけの良さも重要であることが示唆される興味深い結果が得られています。

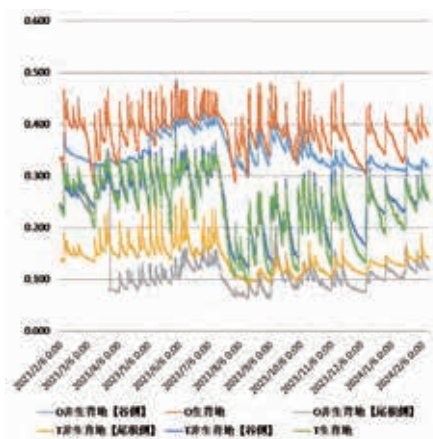


図5 天白溪、大高緑地におけるヒメカンアオイ生育地の2023年2月から2024年2月までの土壌水分量 (m³/m³)。凡例のTは天白溪、Oは大高緑地。

期 間	2023年4月、10月、2024年2月
場 所	相生山緑地・大高緑地・天白溪 (4/22、10/30、2/12)
活動回数	3回
参加人数	延べ23人

(2) クロヤツシロラン

市内東部の緑地においてクロヤツシロランの生育環境の調査を行いました。2017年、2018年に生育地の環境調査に続き、今年度は非生育地の環境調査を行い、生育地と非生育地との環境の差を明らかにしました。なお、本調査は、名古屋産業大学の学部4年生が卒業研究として調査に参加して、データを取りまとめました。こ

の結果、生育地と非生育地は、同様のマダケ林、モウソウチク林でありながら、土壌含水率や全天開空率などで明確な環境の差があることが明らかになりました(図6、図7)。本種の保全にとって有意義な成果を得られました。

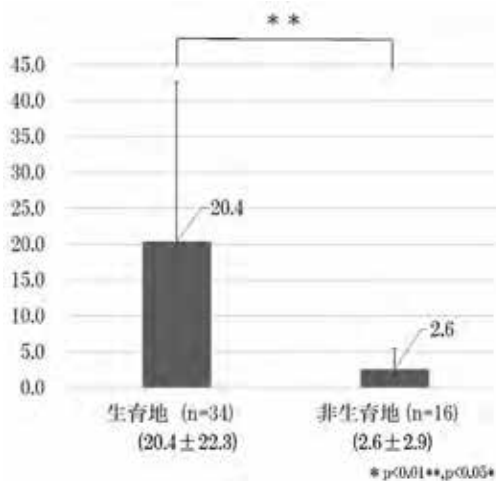


図6 生育地・非生育地の土壌含水率(%)

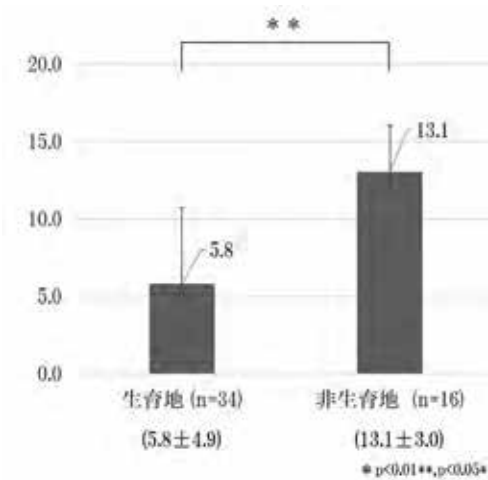


図7 生育地・非生育地の空隙率(%)

* 図6、図7は、水野良(2023)ラン科クロヤツシロランの生育適地、令和5年度名古屋産業大学卒業論文より抜粋

期 間	2023年10月
場 所	市内東部の緑地(10/24)
活動回数	2回
参加人数	延べ8人
協 働	名古屋産業大学

事業⑥：日常生活圏における生物情報の普及啓発手法の検討

事業①、④の調査結果をいち早く、効果的に管理者に伝える方法の検討をしています。

本年度は、本部会でこれまでに得られたクロミノニシゴリの分布記録の成果などをまとめたクロミノニシゴリのパンフレットを2,000部印刷して配布しました。なごビオの会員ほか、名理会を通じて名古屋市内の小中学校やなごビオと連携実績のある高校、大学等に配布して、既に2,000部を配布し終わりました。クロミノニシゴリの生育地はパンフレット製作後も複数個所で見ついているため、情報を更新した2版目を作成します。

本部会では、希少植物の新たな分布確認が相次いでおり、なごやの生物多様性保全上、重要な情報を得られています。今後もその成果を効果的に活用していくための仕組みづくりを進めていきます。

今後について

区別及び希少種別に集中的に植物相や植生、および生育状況の実態を明らかにする調査では、予想を上回る成果を得られています。

次年度以降も調査対象とする区、希少種を決めて、集中的に調査を行うことで、地域ごとの植物の分布、希少種の生育実態を明らかにし、その成果の活用を図っていきます。

2023年度から、生物多様性国家戦略の重要な施策の一つである自然共生サイトの認定が開始されました。名古屋市においても2030年までに5カ所以上を自然共生サイトに認定するとの目標が建てられています。本部会で集めてきた情報はこの認定を進めるための基礎資料として名古屋市環境局に提供しました。今後もこうした名古屋市の施策の支援にもなる様に、更なる活動の充実とより効果的な啓発、普及(生物多様性の主流化、SDGsへの貢献)を図っていきます。

はじめに

本部会は本格的に活動を開始して3年目になる。活動内容は昨年度より継続した保全活動や調査などを中心に実施したが、活動内容も年々充実していき、今年度は生息域外保全活動エリアの整備をはじめとしたなごや生物多様性センターの事業にも参画するなどの取り組みを実施した。

主な活動内容

- 両生類の現状把握のための生息調査
- ウシガエルとアメリカザリガニの防除
- 生息域内外における保全活動の実施と支援体制づくり

今年度の活動記録

●両生類の現状把握のための生息調査

- オワリサンショウウオ・アズマヒキガエルの調査

両生類の調査は、繁殖集団が繁殖場所に集まることや、卵塊を確認することで繁殖集団の個体数がおおよそ把握できることから、主に繁殖期の調査を重点的に行なっている。サンショウウオやヒキガエルは、2～3月の年度末に行われることから、昨年度末の記録も本稿に含める。

オワリサンショウウオ（図1）の産卵場所の調査は、15ヶ所中11ヶ所で産卵が認められ、令和6年の総産卵数は、302卵塊確認され、アズマヒキガエル（図2）は過去の産卵記録から9ヶ所調査し、4カ所で産卵が確認され、総産卵数は9卵塊と極めて少ない値であった。両種は決して健全な状態でなく、特にアズマヒキガエルは、昨年産卵が認められた繁殖地でも今年産卵が確認されなかった箇所があり、極めて危機的な状況にあると思われる結果であった。



図1. オワリサンショウウオ（幼体）



図2. アズマヒキガエル（幼生）

• ナゴヤダルマガエル

名古屋市内の生息場所は、ほとんどが水田であるが、今年度新たに東区の徳川園にて生息を確認した。（図3）徳川園では以前から生息しているようで、本種が陸の孤島状態で古くから生息していたものなのか今後遺伝子解析などを駆使しながら解析していく必要がある。



図3. ナゴヤダルマガエル（徳川園）

・その他

ニホンアカガエルやアカハライモリ（図4）の調査も定量化はしていないものの、例年通り調査観察を行なった。



図4. アカハライモリ（幼生）

連携 名古屋市立大学生物多様性研究センター、名古屋市農業対策課、地元保全団体および土地管理者ほか

●ウシガエルとアメリカザリガニの防除

防除は例年通りタモ網やアナゴ罟を使用したほか、アメリカザリガニの採集では、昨年度から導入している、専門学校と開発した罟も使用した。

活動は以下の場所と日程で実施した。

牧野ヶ池緑地：5月16日、9月13日～15日

平和公園：5月26日、9月23日～24日

猪高緑地：7月～11月

小幡緑地：8月～12月

【結果】

牧野ヶ池緑地

ウシガエル 196匹

アメリカザリガニ 200以上

平和公園

ウシガエル 43匹

アメリカザリガニ 1714匹

猪高緑地

アメリカザリガニ 603匹

小幡緑地

アメリカザリガニ 113匹



図5. 外来ザリガニ・ウシガエルの防除（平和公園）



図6. ウシガエル用ワナの準備（牧野ヶ池緑地）



図7. 新型ワナでの採集調査

連携 なごや東山の森づくりの会、名東自然倶楽部、牧野ヶ池緑地生態系保全協議会、名古屋ECO動物海洋専門学校、名城大学野生動物生態研究会、水生園を育む会、東山総合公園ほか

●生息域内外における保全活動の実施と支援・体制づくり

・生息域内保全活動

名古屋市内で活躍されている自然活動家団体と協力して、サンショウウオやヒキガエルの産卵地整備や観察を実施した。(図8)特に、守山区北部の丘陵地は、名古屋市内でも生物の多様性が比較的高いエリアであり、本部会としても地元の活動家の方々との連携が不可欠であると考えている。そのため、地元活動団体の方々との保全調査活動をより充実するように働きかけた。



図8. 産卵地の整備

・サンショウウオ・ヒキガエルの一時保護

例年行われている活動の一つである、オワリサンショウウオとアズマヒキガエルの卵塊の一時保護を行い、孵化した後、変態直前まで育て、元の水辺に戻す活動を行なった。(図9)両種共に1箇所ずつの産卵地から卵塊を保護し、サンショウウオは758匹、ヒキガエルは2847匹の幼生を放流した。サンショウウオに関しては、卵塊を保護した産卵地よりほど近い湧水地に3年間移植放流した結果、その場所に昨年度末産卵が初めて認められた。



図9. サンショウウオの保護飼育

連携 地元保全団体および土地管理者、名城大学野生動物生態研究会、名古屋ECO動物海洋専門学校ほか

●その他なごや生物多様性センター事業との協働

・生息域外保全エリアの活用

なごや生物多様性センターの敷地内に設置された、生息域外保全エリアを活用するために、昨年度よりオワリサンショウウオを生息域外保全エリア内に放逐し、生息域外での保全活動に取り組み始めた。生息域外保全を行う繁殖集団の選定を行い、サンショウウオの卵囊を一部保護し、孵化した幼生をエリア内の水辺に放逐した。エリア内の整備は、部会会員で行なった他、なごや生物多様性センターが主催する、市民参加型イベントとしても執り行われた(図10)。

・先進技術社会実証支援

「Hatch Technology NAGOYA」

「Hatch Technology NAGOYA」とは、名古屋市経済局が運営する事業で、名古屋市での課題に対し、先進技術を活用した解決策を提案する企業等を募集し、その社会実証を支援する取り組みである。なごや生物多様性センターの課題に対し、京都の地質分析を専門とするサンリット・シードリングス株式会社の提案が採用され、その事業に本部会が協力することとなった。事

業内容として「見えない生態系の可視化」を掲げ、両生類の生息場所や繁殖場所の土壌を採取し、環境DNAなどを分析し微生物叢を調査することで、両生類を中心とする生き物の保全に役立てていく取り組みを行なった。(図11)



図10. 市民参加型イベントとして行われた生息域外保全エリアの整備事業



図11. 土壌サンプルの採集

結果と今後について

本部会は両生類の保全を大きな目的として発足し、3年の事業を重ね徐々に生息域内外保全に寄与しつつある。オワリサンショウウオでは、産卵場所が危機的な状況である地点において、一時保護の里親活動を継続的に行なった他、新たな産卵場所への移植の試みの結果、移植先での産卵が確認されるようになり、人工的にサンショウウオの遷移活動を促すことができた。また、部会員も徐々に増え、地元の自然保護団体との連携も活発になりつつあることから、本部会を立ち上げた意義は多少なりともあったのではないと思われる。両生類の生息場所の悪化は著しく、部会での保全活動は不可欠であるが、今年度取り組んだなごや生物多様性センターとの協働事業のような、科学的解析などを取り入れ、あらゆる方向で保全事業に従事していきたい。

はじめに

昆虫類部会は昨年度より発足し、2年目を迎えました。14名の部会員で活動をしています。

おもな活動は、名古屋市とその周辺域に生息する昆虫類・クモ類の調査、およびその環境の保全に寄与するために、さまざまな採集方法により継続的に調査を行い、またその技術などを担う次世代育成活動を実践しています。

主な事業内容

1. 定点調査
2. 親子採集・観察会、および
標本作製・同定会の開催
3. 標本資料の作製と整理

今年度の活動記録

1. 東山公園 定点調査

東山総合公園は、名古屋市の1.2%強を占める大きな都市公園です。昨年につき今年度もこの公園域を中心にして調査活動を行いました。

また、6月～9月は猪高緑地の塚ノ杵池横と、庄内川河口部でのライトトラップ調査を月一回行いました。また、2022年の調査データとして、小幡緑地公園（2021）と大高緑地公園（2022）のデータも同定作業が行われ、のべ54回77人の調査結果は、名古屋市の希少種リストの元データとしても利用され、外来種の侵入も確認されました。



塚ノ杵池ライトトラップ



塚ノ杵池のヤゴ

結果は、昆虫綱トンボ目7科22種、ゴキブリ目3科3種、バッタ目6科9種、ハサミムシ目1科1種、カマキリ目1科3種、カメムシ目43科120種、チョウ目チョウ類4科17種、ガ類5科5種、アミメカゲロウ目1科1種、コウチュウ目66科518種、ハチ目5科13種の合計141科712種と、クモ綱クモ目35科214種が確認されました（2023/12/31現在、未同定種は含まず）。

コウチュウ目のRDB掲載種は、ヒメボタル（名古屋市NT）、ヒラタクワガタ（名古屋市NT）、コカブトムシ（名古屋市NT）、ヤマトヒメメダカカッコウムシ（名古屋市DD）、マルヒラタガムシ（名古屋市NT）、ヒメシジミガムシ（名古屋市DD）、コガタガムシ（名古屋市DD）、マダ

ラコガシラミズムシ（愛知県NT名古屋市NT）、ムツボシツヤコツブゲンゴロウ（愛知県NT名古屋市CR）、コガムシ（名古屋市DD）が得られました。また、ハマベゴミムシ（国NT愛知県VU）、オオツノハネカクシ（国DD愛知県VU）、アヤスジミゾドロムシ、ツマグロマルハナノミ、ホクベイコメクイゴミムシダマシ、ハイイロカミキリモドキ、ミナミギザチビドロムシなどが初確認されました。



カマキリモドキのなかま



ホクベイコメノゴミムシダマシ

チョウ目ガ類のRDB掲載種は、マエジロツトガ（名古屋市EN）、エンスイミズメイガ（愛知県DD、名古屋市EN）、ハイイロボクトウ（環境省NT名古屋市NT）、ヌマベウスキョトウ（環境省VU、名古屋市VU）が得られました。また特筆すべき種として、ヒメトガリコヤガ、クロテンシロミズメイガ、イネコミズメイガ、スジ

ツトガが庄内川河口部にて得られました。



エンスイミズメイガ



ハイイロボクトウ

クモ目の名古屋市初記録種としては、トビジロイソウロウグモ、オナガヒシガタグモ、タテスジヤリグモ、ワクドツキジグモ、ドウシグモ、コツブウラシマグモ、ヒメチャワシグモ（愛知県初記録）、ヒトリコゲチャハエトリ、ナカヒラハエトリ、ヒメスジハエトリ、トサハエトリの11種があげられます。また、特筆すべき種として、カトウツケオグモとムロズミソレグモがあげられます。両種とも全国的に採集例が少ない種ですが、今回の発見地では定着していると考えられます。



カトウツケオグモ♀



ムロズミソレグモ♀

2. 親子 採集・観察会、および標本作製・同定会

第一回は8月19日、なごや生物多様性センターにて、夏休み企画として標本作製・名前しらべ会が行われました。第二回は9月9日に、午前中は東山公園くらしの森にて採集・観察会。午後はなごや生物多様性センターにて、標本作製・名前しらべ会が行われました。

2回あわせて、のべ講師17人と一般市民の応募参加者37人で行われました。



採集会 東山



採集会 東山



標本作製会



標本作製会



標本作製会

3. 標本資料の作成と整理

なごや生物多様性センター、もしくは名古屋昆虫館にて同定や標本作成をしました。これらの標本は、次世代の昆虫研究家やパラタクソノミスト（準分類学者）を育成するための講座でも利用され、技術の移管や向上の目的のため利用されています。作成された標本は、なごや生物多様性センターに蓄積されていきます。



はじめに

令和5年度の広報・PR事業として以下の事業を実施した。

- 令和4年度活動報告会
- 池干し（隼人池）
- オオキンケイギク対策
- 生物多様性サマースクール
- なごや生きもの一斉調査（ハエトリグモ）
- イベントへの出展
- * 池干し、サマースクール、一斉調査については別頁に掲載

令和4年度活動報告会

令和4年度活動報告会を以下の日程・会場で開催した。報告会では、5部会（動物、水辺、里山林・社寺林、両生類、昆虫類）の活動、一斉調査（陸貝）について報告した。また、金沢大学の西川潮准教授に「アメリカザリガニが引き起こす生態系の変化」をテーマに講演していただいた。

- 日時** 令和5年5月14日（日）
会場 名古屋市立大学桜山キャンパス
さくら講堂
参加者 114人



図1. 西川准教授の講演

オオキンケイギク対策

オオキンケイギク対策として、山崎川での駆除活動と市民参加の抜き取り会を以下の内容で実施した。山崎川の駆除活動は名古屋建設業協会と連携して行っているもので、なごビオは鼎小橋周辺での駆除を担当した。長年にわたる駆除活動の成果で、駆除量は大幅に減少している。抜き取り会は、昨年が続いて植田川河川敷（なごや生物多様性センター周辺）で行った。一般市民に参加していただき、オオキンケイギク対策の普及啓発を行った。

●山崎川の駆除活動

- 日時** 令和5年5月13日（土）
場所 山崎川左岸（鼎小橋周辺）
参加者 6人
駆除量 90リットルごみ袋1.5個

●抜き取り会

- 日時** 令和5年5月27日（土）
場所 植田川河川敷
参加者 24人（市民18人）
駆除量 90リットルごみ袋4個



図2. 抜き取り会の様子

イベントへの出展

●環境デーなごや

「環境デーなごや中央行事」が9月16日（土）に久屋大通公園で行われた。なごビオもブースを出展し、新たに条件付特定外来生物に指定されたミシシippアカミミガメの生体（雄・雌・幼体）を展示し、飼育等に関して注意喚起を行った。また、各部会の活動を紹介するパネルを展示するとともに、活動報告書等を配布した。猛暑日となる暑い一日であったが、大勢の来場者でにぎわった。当日は名城大学野生動物生態研究会の学生の皆さんに説明員として協力いただいた。

●なごや生物多様性センターまつり

「なごや生物多様性センターまつり」は10月28日（土）に行われた。なごビオは環境デーと同様の内容に加え、なごビオが開発したカメ捕獲用の浮島型罟の展示を行った。

また、5年ぶりにブラックバス試食のブースも出展した。午前・午後の2回、ブラックバスの唐揚げを提供し、大勢の人が行列を作った。

両方のブースとも名城大学の学生の皆さんに協力いただいた。

●なごや生物多様性シンポジウム2024

3月24日（日）に名古屋市立大学宮田専治記念ホールで開催された「なごや生物多様性シンポジウム2024」でも、なごビオの活動を紹介するパネルを展示した。



図3. センターまつりのブース



図4. ブラックバス試食のブース

なごや生物多様性サマースクール2023

はじめに

なごビオでは生物多様性を知る第一歩として、小中学生を対象に、「なごや生物多様性サマースクール」を開催しています。

「夏休みの宿題 応援します！」をテーマに、自由研究の助けとなるようなごビオ会員が講師となり、専門知識を活かした様々な講座を開催。身近な自然環境に生息・生育する生きものたちに直接出会えるフィールドワークから、室内でじっくり学ぶ実習まで幅広い講座を企画しています。

今まで気付かなかったことや、普段見ることができない世界に目を輝かせる子どもたち。わくわくする楽しい活動が学びにつながり、少しでも生物多様性に関心を持ってもらえるよう心がけています。毎年、定員をはるかに超える

応募があり、夏休みには欠かせないイベントとなっています。

令和5年度の活動記録

開催期間 令和5年7月21日(金)～8月3日(木)

講座数 全10講座

参加者数 延べ141名 (同伴者延べ105名)

講師人数 延べ42名



① 植田川の水生生物調べ



講師 名古屋市環境科学調査センター
日時 7月21日(金) 9:30～12:00
会場 植田川 (天白区)
なごや生物多様性センター (天白区)
定員 20名

② 調べてみよう！川の生きもの



講師 NPO法人 日進野菜塾
日時 7月22日(土) 9:30～11:45
会場 日進野菜塾 西原の圃場(日進市)
岩崎川下流 (日進市)
定員 20名

③ 竹林調査と水鉄砲作り



講師 大高竹の会
日時 7月22日(土) 10:00～12:00
会場 大高緑地 (緑区)
定員 15名

④ 池のプランクトンの世界



講師 名古屋市環境科学調査センター
日時 7月28日(金) 9:30～12:00
会場 なごや生物多様性センター(天白区)
定員 20名

⑤ 巣箱を作って森に小鳥を呼ぼう！



講師 相生山緑地オアシスの森くらぶ
日時 7月29日(土) 8:50～12:00
会場 相生山緑地オアシスの森(天白区)
定員 10名

⑥ チョウの採集と標本づくり



講師 名古屋昆虫同好会
日時 7月29日(土) 9:00～15:30
会場 猪高緑地 (名東区)
なごや生物多様性センター(天白区)
定員 20名

7 甲虫の採集と標本づくり



講師 名古屋昆虫同好会
 日時 7月29日(土) 9:00~15:30
 会場 猪高緑地(名東区)
 なごや生物多様性センター(天白区)
 定員 20名

8 天白川の水源地を訪ねてみよう



講師 名古屋自然観察会
 日時 7月29日(土) 9:30~12:00
 会場 天白川支流岩藤川上流部(日進市)
 定員 15名

9 猪高緑地の水の生き物観察



講師 名東自然倶楽部
 日時 7月30日(日) 9:00~11:00
 会場 猪高緑地 すり鉢池(名東区)
 定員 15名

10 外来種の昆虫で樹脂標本をつくろう



講師 なごや生物多様性センター
 日時 8月3日(木) 9:30~12:00
 会場 なごや生物多様性センター(天白区)
 定員 10名



なごや生きものの一斉調査 2023～ハエトリグモ編～

はじめに

「なごや生きものの一斉調査」の目的は、多くの市民の方々に身近な自然や生き物に親しみと関心を持っていただくことです。今回の調査は「ハエトリグモ」を対象としました。

ワーキンググループ

今回の一斉調査では、なごビオ会員のうちクモに詳しい者で構成したワーキンググループ(梅本洋子、戸田尚希、加藤修朗、板倉泰弘、萩野典子、事務局)で調査方法等を検討しました。

主な活動内容

今年度も、学校や他都市の保全団体と連携し、市外も含めて多くの地点で調査を実施しました。

●実施体制

主催 なごビオ

(事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター)

協力 公益財団法人名古屋市みどりの協会
連携団体 名古屋市理科教育研究会(1校)、愛知県立愛知総合工科高校、名城大学附属高校、愛知県立一宮高校、NPO法人海上の森の会、NPO法人もりの学舎自然学校、二村山豊かな里山づくりの会、NPO法人みよしの自然環境を守る会、公益財団法人愛知県都市整備協会、岩間造園(株)、一般財団法人公園財団、NPO法人犬山里山学研究所、名古屋産業大学長谷川ゼミ

●実施内容

(1) 調査リーダー事前講習会

日程 9月10日(日)午前、11日(月)午前・午後

場所 なごや生物多様性センター、上八事

第三公園(実地演習)

講師 加藤修朗氏、板倉泰弘氏、萩野典子氏、戸田尚希氏

参加者 106人

(2) 一斉調査

日程 9月22日(金)、23日(土)、24日(日)を中心に前後約1か月間

参加者 のべ614人

調査地点 68地点(市内59地点、市外9地点)

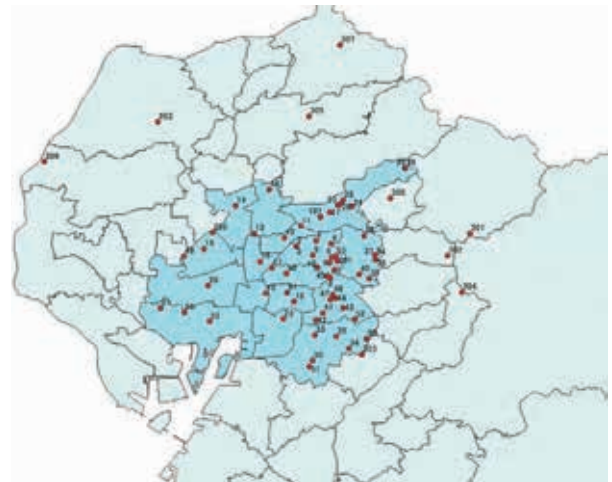


図1. 調査地点

●実施方法

(1) 調査対象

ハエトリグモを調査対象としましたが、ハエトリグモと思われるクモはすべて採集することにしました。

(2) 採集方法

トイレなどの建物や柵・手すりなどの人工物で目視により採集するほか、木の枝や葉を叩いて落ちてきたものの中からクモを探すビーティング、落葉をビニールシートに広げてその中からクモを探すシフティングにより採集しました。

(3) 同定・観察

採集したハエトリグモは1個体ずつ、同定資料に基づき分類し、種類名を記録しました。同

定後、リーダーの解説により採集したハエトリグモを観察し、それぞれの特徴を確認しました。



図2. 採集の様子（牧野ヶ池緑地）



図3. 同定の様子（天白公園）

(4) 再同定

採集したハエトリグモはすべて、なごや生物多様性センターへ提出してもらい、加藤氏はじめ3人の専門家により再同定を行い、種を確定しました。

調査結果

●現地調査

現地での調査結果は表1のとおりです。

今回の調査では、68調査地点で2,235の個体を採集しました。そのうちハエトリグモは35種、1,120個体でした。市内の59調査地点で採集したハエトリグモは33種、907個体でした。ハエトリグモの内訳は次ページの表3のとおりです。

表1. 現地調査の結果

	個体数	種数
ハエトリグモ	1,120	35
ハエトリグモ以外	1,022	91
クモ以外	38	—
不明	55	—

●家屋調査

今回の調査では、リーダーの自宅または勤務先において建物内外での調査も行いました。50人が53か所で調査を行い、250の個体を採集しました。その結果は表2のとおりです。

ハエトリグモでは、チャスジハエトリ、アダソンハエトリ、ミスジハエトリが多く採集されました。

表2. 家屋調査の結果

	個体数	種数
ハエトリグモ	97	10
ハエトリグモ以外	148	26
クモ以外	5	—

●名古屋市での初記録

今回の調査で、チクニハエトリ、トサハエトリ、ヒトリコゲチャハエトリの3種が市内で初めて確認されました。ヒトリコゲチャハエトリは東・中村・中川・守山の4区で確認されました。



図4. 左からチクニハエトリ、トサハエトリ、ヒトリコゲチャハエトリ

表3. ハエトリグモの内訳

種名	確認数	確認地点数	種名	確認数	確認地点数
アリグモ	26 (26)	12 (12)	オスクロハエトリ	23 (4)	4 (3)
ヤガタアリグモ	160 (152)	38 (34)	ヤハズハエトリ	19 (16)	6 (4)
ヤサアリグモ	1 (1)	1 (1)	キアシハエトリ	11 (11)	4 (4)
タイリクアリグモ	7 (0)	1 (0)	ヒメカラスハエトリ	7 (2)	2 (1)
シラヒゲハエトリ	27 (27)	10 (10)	イナズマハエトリ	20 (16)	10 (7)
アダンソンハエトリ	11 (11)	7 (7)	エクスハエトリ	1 (1)	1 (1)
ミスジハエトリ	129 (112)	40 (34)	カタオカハエトリ	7 (2)	5 (2)
チャスジハエトリ	38 (26)	18 (13)	キレワハエトリ	9 (4)	3 (2)
アオオビハエトリ	90 (72)	30 (25)	クワガタアリグモ	4 (4)	1 (1)
ヨダンハエトリ	16 (8)	9 (6)	チクニハエトリ	7 (7)	1 (1)
ウデブトハエトリ	6 (3)	5 (3)	トサハエトリ	2 (1)	2 (1)
コガタネオンハエトリ	1 (1)	1 (1)	ヒトリコゲチャハエトリ	6 (4)	5 (4)
シラホシコゲチャハエトリ	9 (4)	4 (1)	ヒメスジハエトリ	3 (0)	1 (0)
チャイロアサヒハエトリ	26 (26)	2 (2)	マツモトハエトリ	17 (14)	8 (6)
メガネアサヒハエトリ	36 (18)	8 (6)	メスジロハエトリ	7 (7)	1 (1)
ネコハエトリ	177 (162)	42 (35)	ハエトリグモの一種	12 (10)	7 (5)
マミジロハエトリ	46 (33)	19 (15)	アリグモの一種	14 (10)	8 (6)
マミクロハエトリ	10 (9)	3 (2)	オスクロハエトリグモの一種	8 (8)	5 (5)
デーニッツハエトリ	45 (20)	16 (10)	ジャバラハエトリグモの一種	1 (0)	1 (0)
アシブトハエトリ	9 (9)	6 (6)	ヤマトハエトリグモ属	72 (66)	17 (15)
			合計	1,120 (907)	—

* () 内は市内の数

赤字は名古屋市初記録の種



図5. 左から確認数の多い順にネコハエトリ、ヤガタアリグモ、ミスジハエトリ、アオオビハエトリ

ハエトリグモ以外では、「名古屋市版レッドリスト2020」で絶滅危惧ⅠA類とされているワスレナグモが、個人調査を含め千種・守山・緑・名東・天白の5区で確認されました。

考察

●環境別の採集結果

今回の調査では、ハエトリグモを採集した環境を次ページの表4の6つの区分で記録しました。環境別の採集個体数は図6のとおりです。

表4. 環境区分

A	樹木
B	地表（落ち葉）
C	地表（石）
D	草地
E	人工物（手すり・柵・看板など）
F	その他

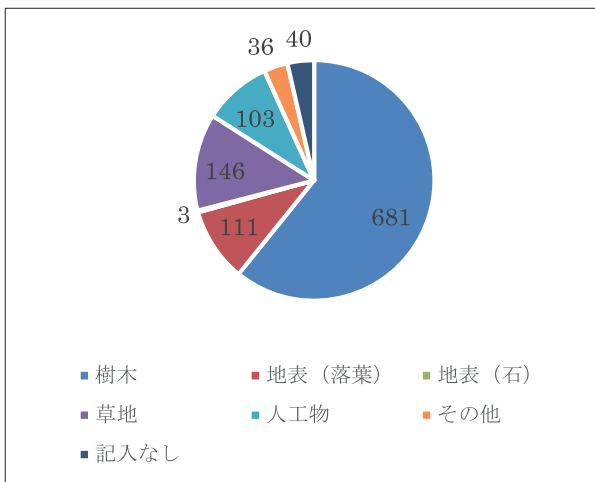


図6. 環境別の採集個体数

樹木及び草地での採集はビーティング、地表（落ち葉）での採集はシフティングによるものと思われます。半分以上が樹木から採集されており、都市部の公園ではビーティングに適した樹木が多い一方で、落ち葉の堆積は少なく、シフティングに適した場所は少なかったと思われます。

● 地点別の多様度指数

調査地点別に、採集したハエトリグモの個体数と種数により多様度指数を算出し、その場所の生物多様性を評価してみました。多様度指数は個体数と種数が多く、種間におけるばらつきが少ないほど大きい値になります。市内の一般参加による調査地点で、多様度指数が2.5を超えたのは表5の5地点です。

表5. 地点別の多様度指数

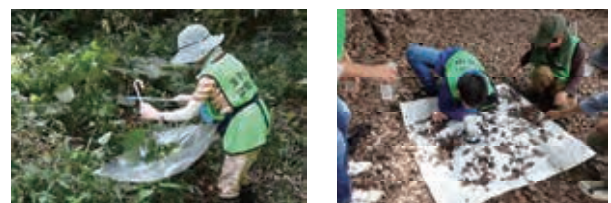
調査地点	多様度指数	個体数	種数
東山の森（くらしの森）	3.52	46	14
猪高緑地（塚ノ杖池周辺）	2.90	19	9
小幡緑地本園（北部）	2.75	8	7
東山の森（うらおいの森）	2.62	30	8
小幡緑地本園（児童園）	2.52	7	6

いずれも東部丘陵地の大規模な緑地で、市内でも東部地域は自然度が高いことが分かります。

今回の調査にものべ614人と大勢の方に参加いただきました。参加者のアンケートによると、小さなハエトリグモの同定は難しかったようですが、ビーティングやシフティングという採集方法は面白かったようです。また、クモが格好いい、かわいいという感想もいただきました。

なお、調査地点別、種類別の詳しい考察については、「なごや生きもの一斉調査2023 ハエトリグモ編 調査結果報告書」をご覧ください。

調査当日の様子



左から東山の森・ふれあいの森（ビーティング）、瑞穂公園（シフティング）

池干し～隼人池（昭和区）～

池干しの経緯

隼人池では2023年11月から2024年12月にかけて池底の堆積物を取り除く浚渫工事が行われました。管轄する昭和土木事務所からの依頼により、工事期間中の池の生物保護を目的として、池干しを実施しました。

隼人池では2009年にも池干しを実施しており、その際は地元の小学生を招いて行われました。今回も身近な自然に触れる機会として、地元の小学生に池の中で生物を捕獲する体験をしてもらいました。

関係団体

南山大学、南山高等学校、南山中学校、南山小学校、八事小学校、滝川小学校、昭和土木事務所、名古屋市環境科学調査センター、なごや生物多様性センター

事前調査

水生生物調査：9月11日

事前の生物調査により、池干し時に捕獲される種数や量を推測します。また、池干し後に同様の調査を実施することで、池干しによる生物への影響が分かります。調査は、タモ網による捕獲を5名で30分間と、モンドリ（簡易のワナ）による捕獲を5基で30分間実施しました。

表1. 事前調査結果

	種名	個体数 (タモ網)	個体数 (モンドリ)
在来種	モツゴ	17	77
	トンボ目幼虫	3	—
外来種	カダヤシ	56	—
	ブルーギル	26	7



図1. モンドリの設置

水深・泥厚調査：9月11日

水深と泥厚を計測することで、池干し時に魚が集まる場所や、立ち入ると危険な場所が明らかになります。水深はスタッフ（メモリの付いた計測用の棒）で計測し、泥厚は先の尖ったポールを泥に刺しながら計測しました。

カメ捕獲調査

カメは池の水を抜くと泥に潜り込むため捕獲が難しくなります。浮島型ワナとエサによる誘引式のワナの二種類で事前の捕獲を試みました。

浮島型ワナは9月11日～10月31日まで、誘引式のワナは10月30日～10月31日に計15基設置しました。しかし、今回の事前調査でカメは捕獲されませんでした。

池干し：11月19日

池干しには、なごビオ関係者、地元の小学生、昭和土木事務所、なごや生物多様性センター職員、見学者を含め、300名程が参加しました。

生物はタモ網と地引網によって捕獲され、運搬、同定の後に計量を行いました。池干しの結果、ニホンウナギ、ドジョウ、マルタニシ、タガイ類などの絶滅危惧種が確認されました。特にマルタニシとタガイ類はこれまで隼人池では確認されていないため、貴重な発見となりました。

た。また、2009年の池干しの結果と比較して、在来のフナが個体数を減らしていること、タモロコの個体数が増加していないことが明らかになりました。いずれの種も産卵などに水生植物を利用するため、隼人池ではそのような環境が少ないことがわかります。

一方、外来種については2009年に取り除いたオオクチバス、ゲンゴロウブナ、コイなどはほとんど確認されませんでした。しかし、ミナミメダカがカダヤシに置き換わっていることが明らかになりました。

捕獲した在来種は、なごや生物多様性センターに運搬して保護し、2024年2月18日に放流しました。また、外来種は池から取り除きました。

今後は貴重な貝類が池干し後も生存しているのか、池の生物数や種数がどのように変化するかをモニタリングしていきます。

表2. 池干し調査結果

	種名	個体数	重量(g)
在来種	ニホンイシガメ	1	1063
	ニホンウナギ	1	1420
	フナ属の一種	77	49265
	モツゴ	※7850	16707
	タモロコ	5	46
	ドジョウ	13	273
	ヒメゲンゴロウ	1	—
	ミズカマキリ	1	—
	トンボ目幼虫	61	—
	カワリヌマエビ属の一種	3	—
	スジエビ	1	—
	マルタニシ	1	8
	ヒメタニシ	1	3
	タガイ類	3	493
外来種	ミシシippアカミミガメ	1	1483
	コイ(飼育型)	1	3258
	ヒブナ(キンギョとフナ属の交雑個体)	3	1688
	タイリクバラタナゴ	1	2
	カダヤシ	※1920	776
	ブルーギル	※9470	30172
	アメリカザリガニ	48	—
タイワンシジミ	271	1176	

※重量より個体数を算出



図2. 地引網から魚を捕獲する参加者

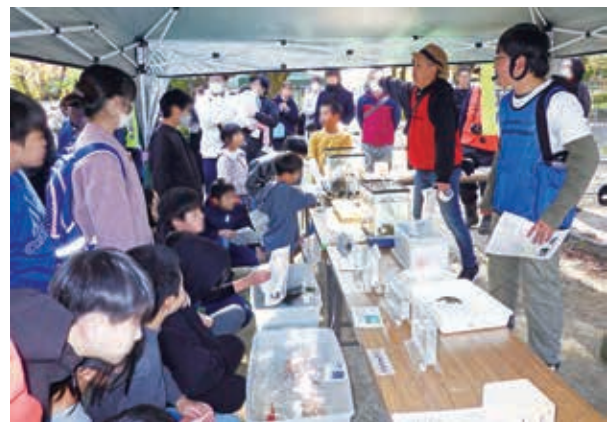


図3. 隼人池の生物や池干しについての解説(撮影者:鳥居亮一)



図4. タガイ類(撮影者:鳥居亮一)



図5. ニホンウナギ(撮影者:鳥居亮一)

定例会

定例会は、なごバイオメンバーの親睦を深めるため「お互いを知ろう」、「お互いに学び合おう」をテーマに平成24（2012）年10月から始まりました。

令和5年度はオンラインで開催。なごバイオ会員の太沼淳一さんに「木曾川の生物多様性に関する下流域都市・名古屋の責任」というテーマでお話頂きました。

参加者：延べ20名

●定例会等の催事情報は、「なごバイオ 市民生きもの調査員」へメール配信しています。

市民生きもの調査員は随時募集しています。図1. 市民生きもの調査員応募フォーム（二次元バーコード）より登録お待ちしております。



図1. 市民生きもの調査員 応募フォーム
（二次元バーコード）

会員活動支援

なごびオでは、会員が行う地域活動に対し、その活動の活性化と、それを通じたなごやの生物多様性の保全を目的に、活動支援を行っています。支援内容は以下のとおりです。

- ▶ 調査機材の貸出
- ▶ 講師・専門家等の派遣やそれに伴う会場借上げにかかる費用負担
(調整等は会員が実施、協議会は費用を負担。1件あたり上限30万円相当)
- ▶ 市民生きもの調査員への催事案内

令和5年度は、以下の活動について支援を行いました。

令和5年度 活動一覧

実施団体名（敬称略）	活動内容
名古屋昆虫同好会	名古屋昆虫同好会主催・特別講演会
名古屋自然観察会	葉っぱはなぜこんな形なのか？ —植物の生きる戦略と森の生態系を考える—

上記以外にも、12件の物品の貸出を行いました。

令和5年度 市民調査員への催事案内件数

月	R5年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6年 1月	2月	3月
件数	2	6	2	2	6	4	7	4	3	5	6	2

名古屋昆虫同好会主催・特別講演会

名古屋昆虫同好会幹事 伊藤 健太郎

はじめに

名古屋昆虫同好会では2016年から毎年1月の総会の後に、外部から専門家をお招きして特別講演会を開催しております。本年もまた会員活動助成金を活用し、以下の通り特別講演会を開催しました。

講演会要旨



2024年1月21日(日)、名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール)にて、中峰空(ひろし)先生をお招きし、“学研図鑑製作裏話”をタイトルに講演をして頂きました。

中峰先生は1971年に奈良県に生まれ、2009年に神戸大学にてコブヤハズカミキリの研究で博士号(農学)を取得された後、現在は大阪府の箕面公園昆虫館の館長を務められ、昆虫の研究者として第一線で活躍されています。

最近では、2022年6月に発刊された“学研の図鑑LIVE 新版 昆虫”(丸山宗利氏監修, 学研プラス)にて副監修を務められました。この図鑑は、

- ① 昆虫の進化の道筋や系統を追える構成
- ② 生体を白バックで撮影したものを掲載
- ③ 昆虫に関する最新の知見を反映させる

の3つをコンセプトに、旧版から大幅に改訂した画期的な一冊となりました。製作は短期間で行われ、沢山の苦勞とそれらを乗り越えるための工夫が溢れるような現場だったとのこと。

今回の講演では、そんな図鑑の製作現場においての様々なエピソードについて、貴重なお話を頂きました。

図鑑では読み飛ばされそうな一見地味に見えるある昆虫が実は進化の過程を追ううえでは重要な立ち位置になっていること、昆虫の進化の過程と多様化を反映した掲載の順序のこと、ミャンマーの琥珀の昆虫化石の中から新種を記載したこと、図鑑製作中に発見された新種のこと、生体を白バックで撮影する際の工夫と試行錯誤、最新の知見を知るためにいくつもの論文を読み込みそれを分かりやすく端的に述べるための言葉の選び方等々、各エピソードの中に聴衆へのメッセージが込められ、中峰先生の熱意が随所に感じ取られる講演となりました。

会場には名古屋昆虫同好会の会員のみならず老若男女75名が集い、なかには図鑑を持参してページをめくりながら熱心に聞き入る子供や、講演後に図鑑にサインをもらう子供の姿も見られ、大盛況の講演会となりました。



葉っぱはなぜこんな形なのか？—植物の生きる戦略と森の生態系を考える—

名古屋自然観察会 石原 則義

はじめに

葉っぱの役割は、太陽の光を浴びて光合成を行うことです。すなわち、二酸化炭素を吸収し酸素を排出しながら、生きるための栄養（糖分）を得ることで。葉っぱの形は、いかに光合成を行うか、その戦略や適性を表した形になっていると考えられます。

調査結果

日時：10月9日（月・祝） 13：00～16：30
 場所：名古屋市中小企業会館（吹上ホール）
 講師：林 将之氏（樹木図鑑作家）
 参加者：55名

ギザギザは何のためか？

まずはギサギサ＝鋸歯の機能が何なのか考えてみました。鋸歯の先端に「水孔」（すいこう）と呼ばれる穴があり、水孔から水が出る現象は「溢泌」（いつぴつ）「溢液」（いつえき）と呼ばれています。植物が水分過多になった場合、通常は葉裏にある気孔から水分を蒸発させる（蒸散という）が、気温が下がって気孔が閉じる夜間は、水孔から余分な水分などを排出します。鋸歯の機能は水分を排出するだけでなく、ヒラギのトゲは外敵、特に草食動物から身を守るための鋸歯と考えられます。ほかにも鋸歯のギサギザが、葉をとりまく空気の層「葉面境界層」（ようめんきょうかいそう）に変化を起こして空気を流れやすくし、それによって気孔が二酸化炭素を取り込みやすくなり、光合成の効率が高まるということです。

切れ込みのある葉とない葉

幼木ほど葉が切れ込み、成木ほど不分裂葉が増えるパターンの木が多いのはなぜでしょうか。葉に切れ込みがあると、葉の周囲の空気が流れやすくなり、光合成に必要な二酸化炭素を取り

込みやすくなるということです。

まとめ

鋸歯のギザギサについて考えもしませんでした。どの本にも掲載されていません。自然観察会でも見落としていました。

今回は、全体では55名の参加。そのうち、37名の方がアンケートに協力いただきました。

アンケートの一端を紹介することでまとめにかえたいと思います。

樹木の葉の形と人間のタイプと結び付けた解説はとても面白く、観察会の参加者にも興味を持って聞いてもらう話法の一つにいいなと思いました。その他、とても勉強になる内容が満載で良い時間でした。観察会に参加してもなかなか名前を覚えることができないのでどうしたら覚えることができるか悩んでいました。今日はそのための解決策のヒントを得た思いです。少なくとも樹木に関しては先生がお書きになった図鑑がバイブルになりそうです。

自然の現象（形状、分布、数 etc）は、全て理由や意味がある。自らウロコでした。逆に見ている傾向があった。葉形に意味があることを具体的に理解できた。葉の形を選ぶ心理テストが面白かった。なるほど、言われてみるとそうかとも思った。



意見交換会

地域活動支援

なごびオでは会員以外の活動においても、地域団体がなごやの生物多様性の保全を目的として行っている活動について、調査機材の貸出を行っております。また必要に応じて、現場指導や生物の同定などの支援も行っています。

令和5年度 活動一覧

実施団体名	活動内容
細口池生きもの復活クラブ	細口池生きもの復活クラブ活動2023

上記含め、10件の物品の貸出を行いました。

細口池生きもの復活クラブ活動報告 2023

細口池生きもの復活クラブ 代表 浅井 正明

はじめに

●ツバメのねぐらが復活して6年



観察会

ヨシ原再生活動を始めて11年、1万羽ともいわれるツバメが戻って6年が経過しました。今年度は、月1回、定例のヨシ原の保全活動、月2回程度の池清掃と排水口清掃、そして湧水か所と流入か所の

保全整備を行いました。ツバメのねぐら入りは今年も7月8日から10月上旬まで確認され、50人の住民と観察会を行いました。8月には子どもたちと生きもの調査を行い、イシガメやモクズガニを採集しました。

●定例活動：毎月第2土曜日 会員数11名

活動日	活動内容
4月8日	ヤナギ・ヒメガマ除去、ヨシ刈取り
5月13日	ヒメガマ除去、湧水地保全
6月10日	ヒメガマ、ヤナギ、ナンキンハゼ除去
7月8日	生物調査準備、ツバメねぐら入観察
8月25日	カメわな、モンドリの設置、
8月26日	生物調査・解説及び特定外来種除去
9月9日	湧水か所保全、ヨシ・ヒメガマ除去
10月21日	ヒメガマ除去
11月11日	ヤナギ除去、ヒメガマ、ヨシ刈取
12月9日	流入口池2か所の接続とヨシ刈取
1月27日	活動報告会

●随時活動

活動日	活動内容
4月1日～ 月2回程度	池内清掃、排水口清掃、水鳥やヨシ原調査など

●生物調査結果 8/25・26に実施、参加者55名

調査は、カメわな、モンドリ、タモ網を使って子どもたちもいっしょに捕獲調査をしました。

結果は下表のとおりです。協議会の宇地原さんが解説し、特定外来生物は処分しました。



分類	種別
魚類	モツゴ1200、カダヤシ1200
は虫類	イシガメ1、ミシシippアカミミガメ幼体1・成体1
甲殻類	モクズガニ6、アメリカザリガニ45 ミナミヌマエビ1
両生類	ウシガエル幼体26



●13年間で確認された種

今年の新発見はなし

分類群	種名
魚類 6種	ドジョウの仲間、フナの仲間、モツゴ、トウヨシノボリ、カダヤシ、コイ
甲殻類 4種	モクズガニ、スジエビ、アメリカザリガニ、ミナミヌマエビ
は虫類 3種	クサガメ、ニホンイシガメ、ミシシippアカミミガメ
両生類	ウシガエル（幼体多数、成体）
鳥類 25種	バン、オオバン、アオサギ、コサギ、カルガモ、コガモ、オオヨシキリ、カワセミ、ツバメ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、カイツブリ、ダイサギ、ヨシゴイ、カワラヒワ、カワウクイナ、ヒクイナ、シロハラクイナ、オオジュリン、スズメ、ハシボソガラス、モズ、ムクドリ、マガモ
昆虫類 10種	ヒメミズカマキリ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、チョウトンボ、ウスバキトンボ、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ、クロイトトンボ、アジアイトトンボ

まとめ

ヨシ原は、概ね3千㎡で1万羽といわれるツバメを収容しています。ツバメが渡るとヨシの実を啄みにスズメの大群が餌場になっています。水面の占有率は概ね40%保持されるよう刈り取っています。水中及び底質の小動物が豊かにするため増殖したコイを少なくすることが課題となっています。また、総合的な生きもの調査と生物写真の展示が願望となっています。



湧水池の保全整備



流入口池の保全

助成金事業

なごビオでは、自然環境保全の後継者育成を目的とする活動や、新たに取り組まれる保全活動を支援することで、次世代の担い手づくりや新たな活動の創出を応援しています。

開始から9年目にあたる令和5年度は、3件の助成を行いました。

また、令和3年度から助成金事業に対する寄付の募集を開始し、本年度は合計56,430円（銀行振り込み：42,000円、活動報告会等における募金：14,430円）のご寄付をいただきました。寄付金はユース（高校）への助成金に充当させていただきました。ご協力ありがとうございました。

令和5年度 活動一覧

実施団体名（敬称略）	活動内容
愛知県立佐屋高等学校 科学部	花ハスの品種間の形態的特徴の違いと遺資資源の保存取集
地球ハグ倶楽部	みつばちと命のサイクルから学ぶ！ ～BeeHappy∞Project～
名古屋経済大学市邨高等学校	学校のビオトープ、緑地帯で行う 生物多様性に関する調査・体験・学習活動

花ハスの品種間の形態的特徴の違いと遺資資源の保存収集源

愛知県立佐屋高等学校 科学部 顧問 武田 誠司

はじめに

本校が位置する愛知県愛西市は、レンコン栽培が江戸時代後期から行われ、現在、全国有数の産地として名が知られている。レンコンはハス (*Nelumbo nucifera* Gaertn. (1806)) の地下茎を食用とする。ハスの歴史は古く、国内では多くの遺跡からハスの実が出土し、1951年に東京大学検見川厚生農場の落合遺跡で大賀一郎博士が発見した大賀蓮は、特に知られている。花は観賞用として親しまれ、現在、国内でも多くの品種が存在する。愛西市も立田赤蓮の発祥の地として、花蓮の保存活動が行われている。

本取組では、昨年度の助成事業に引き続き、花蓮について調べることにした。特に今年度は遺伝資源の収集として、国内有数のコレクションを保有する東京大学生態調和農学機構が持つ花蓮をお借りし、交配実験も行った。また、種ハスの観察、栽培をとおして、品種間差も観察した。花ハス見本園の整備も行った。

調査方法及び結果

●東京大学から導入した品種

原始蓮・藤壺蓮・毎葉蓮・誠蓮・淀姫・バージニア蓮・一天四海・千弁蓮・緑地美人^{*1}・月のほほえみ^{*2}

^{*1}2011年に東京大学で育種・品種登録

^{*2}2016年に東京大学で育種・品種登録

●見本園作成に向けて

東京大学より提供された品種、また、本校がこれまで有する品種を用いて、本校農場敷地内に見本園の整備をした。

整備状況としてハス田の作成、ポット・鉢を利用した栽培見本園を作成した。

本校が所有する品種は以下の4つである。

ロータス、備中… (食用種)

古代蓮、白雪公主… (園芸種)

●交配実験

交配実験は、開花期に人工交配により、実施した。実施にあたり、東京大学生態調和農学機構技術職員石川祐聖氏、東京家政学院大学石塚子先生から助言をいただきながら行った。

実験では、毎葉蓮と原始蓮を中心に行った。



写真1. 毎葉蓮

写真2. 原始蓮



写真3. 交配の様子

写真4. 交配後

毎葉蓮は6月中旬から開花が始まったが、原始蓮は開花個体が少なかったため、交配のタイミングがなかなか合わなかった。そのため、毎葉蓮と原始蓮の交配では、計3つの交配のみから種子が得られた。

●形態観察

ここでは毎葉蓮と原始蓮の植付け前に調査した種ハスの大きさと、開花時の蕾の大きさ、開花数について記載する。

	長さ・平均 (cm)			厚み・平均 (cm)		
	第1節	第2節	第3節	第1節	第2節	第3節
原始蓮	5.74	6.04	10.02	1.82	2.28	2.18
毎葉蓮	5.22	7.03	8.46	2.11	2.87	3.69

表1. 種ハスの長さ・厚みの平均

	蕾の膨らみ (cm)	開花数総計
	(開花前・10株平均)	(10株中)
原始蓮	22.39	3
毎葉蓮	19.21	14

表2. 蕾の膨らみ・開花数 (10株中)

まとめ

昨年度は、愛西市内の保存花蓮の調査を中心に行い、その過程で生徒たちが地元の専門高校である本校でも保存園を整備したいと考えた。今年度は、品種の収集と交配実験で遺伝資源の創出を行った。この活動を継続し、本校も保存園として有用な機能を果たせるようにしたい。

みつばちと命のサイクルから学ぶ～BeeHappy∞Project～

(地球ハグ倶楽部) 代表 坂部 里咲・副代表 高松 一史
ニホンミツバチ研究者 白金 丈英

はじめに

2020年3月から大高緑地等でニホンミツバチの調査・保護活動をしており、今年度、1年を通じて実践的に体験を通じて“みつばちの伝道師を育成する活動”を実施した。

活動内容

日本では、伝統的な丸洞式から重箱式へ変化している。世界的には、養蜂産業は巣枠式が一般的である。個体数が少ない生息地ではよりミツバチの状況を確認出来る巣枠式が有効であると考えて実証実験を開始。秋口からスズメバチスズメの攻撃や冬場アカリングダニ、冬場の蜜源植物の減少などの影響で越冬させることが課題でもあった。

調査結果

課題解決方法として新たな技術を取り入れて実証実験を行った。

なぜ、設置場所に定着しにくいのか？

【仮説】

- 1 蜜源植物が貧困である。(生息環境)
- 2 アカリングダニの影響大(外来種)
- 3 スズメバチスズメ(攻撃)が多い
- 4 BB弾による被害(人的攻撃)

【課題解決】

上記のことから越冬させることが難しいことが判った。新たな活路を見出す為に、2021年12月にミツバチシンポジウムで知り合った立石靖司氏及び当会アドバイザーである白金丈英氏の両名のご尽力でニホンミツバチの養蜂では珍しい巣枠式の実証実験を行った。結果越冬に成功したことで、都市養蜂に新たな方式(巣枠式)を見出した。※ニホンミツバチの巣枠式巣箱は国内での普及は遅れている。以下のようなメリットがある。

- ①産卵、子育ての様子が目視出来るため、病気や給餌などの的確で迅速な対応が出来る。

- ②みつばちに、負担をかけることがなく、採蜜が出来る。

巣枠式はミツバチの生態/環境がより詳細に確認出来ることが最大の特徴である。

11月ミツバチサミット2023にも参加。最新の研究や人脈を繋げることが出来た。

現在、(国)森林研究・整備機構 森林総合研究所様に採集したサンプル(はちみつ)を送り大高緑地の蜜源植物の調査を依頼中。



図1. 巣枠式 生育確認

まとめ

表1. 図表 参加者人数(中間報告)

4/23 見学会	6/10 (夏仕事)	10/7 (採集蜜)
47人	19人	7人

* 1/27 巣箱作り 2/10 みつばちを迎える春仕事

昨今のメディアの影響でミツバチへの関心は大きく、なごや生物多様性センターまつりでも多くの方と話す機会も多かった。

なごビオの助成金で作成した絵本や紙芝居も有効に活用し“みつばち”を通じて親子に自然の大切さを知って頂いた。

過去4年間の実績で、解らなかったミツバチの生態が解り始めた。この成果を活かす為にも、今後も“伝道師”育成活動に注力し更に活動を広げて行きたい。

ミツバチだけでなく、ハナバチなどポリネーター(花粉媒介者)にも注力して活動して行きたいと考えている。

学校のビオトープ、緑地帯で行う生物多様性に関する調査・体験・学習活動

(所属 名古屋経済大学市邨高等学校) 稲尾 賢心・笠松 俊希・熊澤 隼也・松岡 凌平・佐藤 豊

はじめに

名古屋経済大学市邨高校は、名古屋市北千種にある都市の学校である。2023年度より、ユネスコスクールとなり、準備段階からSDGsの取り組みを継続的に行ってきた。2022年度は、施設の移転によるビオトープの一部縮小があったものの他は堅持され、科学研究部や市邨ゼミ(生物探究)、生物選択の生徒の主体的な学習活動の場となっている。

学校全体・教員の取り組み

[市邨ゼミ(生物探究)] 講座数は、20であり、色彩検定・数学検定など多彩である。高校2年生徒400名は、担当教員のプレゼンを聞き、講座を決定する。生物探究は、17名が集まった。内容は、学内のビオトープの紹介・プレゼンの実施・ポスター作成・各自調査・研究など。

[未来の語り場] 農林水産省・アドベンチャーワールドなどより来校され御講演を頂いた。放課後に学内にて行われるもので、全校生徒は、自由に参加できる。ゼミを深めることができた。

[図書館の整備] ICT機器が2023年度整備され、科学研究部や生物探究ゼミの説明や発表の準備などを市邨図書館で行った。また、未来の語り場の講演の場として、利用されている。

[市邨Exhibition day] 生物探究ゼミで得た知見を生徒が学内で発表する。令和6年3月13日に開催される。学外や保護者の方も来校される。



写真1. 市邨ゼミ (生物探究)

生徒の取り組み

[市邨ゼミ] 生物探究ゼミ17名は、14のテーマ(アリ・ハサミムシ・クモなど)を各自で決めて、主体的に取り組んだ。その際に、ビオトープを活用し、体験・調査・研究した。

[学外での発表] 7月サマーセミナー、8月名古屋市青少年交流プラザ、なごや生物多様性センターまつりにて、ブース発表やステージ発表を行った。また、ブース発表では、お持ち帰りの理科教具を開発し、作成し、配布できた。

[学内での発表] 10月は、文化祭、3月市邨Exhibition dayで発表した。



写真2. ブース発表



写真3. ステージ発表

[副産物] 高校3年生物の生徒が、市邨図書館のキャラクター(白文鳥)を作成した。42の候補の中から、文化祭の投票で選ばれた。ゼミ内で、グッズの原案を考え、図書委員に提案し、グッズ作成中である。今後、ブース発表で活躍する。



図1. 市邨図書館キャラクター「としよくん」

まとめ

2023年度教員は、学習環境(カリキュラム・外部講師の講座・図書館の整備)やゼミの運営に動いた1年であった。生徒は、自主的に1つの生物にフォーカスして、ビオトープなどで調査・研究することができた。昨年度まで、科学研究部主体で活動を行ってきたが、それ以外の広く生物に興味を持つ生徒と学ぶことができた。活動を進めていくうちに生物に興味を持つ生徒が結びついた。また、その生徒が、学内や学外で発表できた。継続していきたい。

相生山緑地自然観察会

団体の目的・主な活動内容

■目的

自然観察を通して、自然に親しみ、自然のしくみを学び、自然保護・保全の大切さを伝え守ることを目的とする。

■活動

- ・観察会
- ・調査・保全・保護活動
- ・ガイドブック・冊子などの企画・執筆
- ・なごや生物多様性センター、天白区役所他 パートナシップ事業
- ・他団体との情報交換など



ヒメボタル (オス)

令和5年度の活動について

■観察会：四季折々の植物・昆虫・鳥などをテーマに実施

5/9、7/11、9/12、11/14、1/9	奇数月第二火曜	団体内部での観察会
5/13 (土)	ヒメボタルを観察しよう	主催：天白生涯学習センター
9/23 (土)	なごや生きもの一斉調査2023～ハエトリグモ編～相生山緑地北	主催：なごビオ
9/24 (日)	同上	相生山緑地南
		同上
10/14 (土)	生きものさがし&ドングリ・クラフト	連携：天白もり・フォーラム
11/17 (金)	〈なごや学〉季節の魅力を「相生山緑地」で感じよう	主催：昭和生涯学習センター

活動団体の紹介

主な活動場所 相生山緑地オアシスの森 (名古屋市天白区)

相生山緑地自然観察会

携帯電話：080-9110-3330 E-mail：kimiko.k@chorus.ocn.ne.jp

- 例会の予定：・定例観察…5月ヒメボタル、10月生きものをテーマに観察会実施
・奇数月第2火曜に内部研修 ・その他…随時、関係機関などの催事に参画予定

「あいちの海」グリーンマップ

団体の目的・主な活動内容

目の前にある三河湾と伊勢湾の海で見られる素晴らしい自然を、名古屋の人や地元の人に知ってもらうこと。

令和5年度の活動について

今年のいつにない猛暑は、当会の主なフィールドとする南知多町長谷崎・聖崎の生態系にも、大きな影響を与えました。「海のゆりかご」と呼ばれ、幼魚や小さな生き物の生息地として重要なアマモ場のアマモが激減しました。その影響もあるのでしょうか。いろいろな生き物が、姿を消してしまいました。

十年以上にわたり毎年開催してきた「ヨットで佐久島へ！」のヨットが老朽化のため、使えなくなりました。

今年度は、活動の方向性を大きく見直さざるをえない1年となりました。

- ① 4月初旬 南知多町聖崎・長谷崎のウミウシ調査開始 (夜間調査も含む)。
- ② 4月29日 (土) 佐久島での自然観察会。佐久島での昔の様子の聞き取り開始
- ③ 5月18日 (土) 午前：南知多町みさき小学校の磯の観察会の手伝い。午後：クサフグ産卵確認
- ④ 5月20日 (土) なごや環境大学フィールドワーク__なごやの水はどこへ行く 協力
- ⑤ 6月3日 (土) クサフグ産卵観察会
- ⑥ 6月7日 (水) 佐久島でのウミウシ調査開始。11月からは、夜間調査となる。
- ⑦ 6月17日 (土) 佐久島での昔の様子聞き取り。夜間にウミホタルの生息を確認。
- ⑧ 7月15日 (土) ウミホタルとアカテガニ放仔観察会
- ⑨ 10月14日 (土) 田原で行われた愛知県主催の「三河湾大感謝祭」に参加
- ⑩ 10月28日 (土) なごや生物多様性センターまつりに「チリメンモンスターを探せ！」で、参加。



4月29日佐久島での自然観察会



アオウミウシ



佐久島での昔の様子の聞き取り

活動団体の紹介

主な活動場所 三河湾 南知多町・佐久島・名古屋市

「あいちの海」グリーンマップ

TEL/FAX：(052)841-6048 E-mail：a-ohya@sc.starcat.ne.jp ウェブサイト：http://www1.m1.mediakat.ne.jp/aichisea/

■例会の予定：不定期 (ウェブサイトを確認下さい)

愛知守山自然の会

団体の目的・主な活動内容

2004年から守山区の小幡緑地本園を中心に、①一般参加者向けの自然観察会の実施、②湿地の保全・保護、③マメナシなど希少生物の保全・保護、④研修や各種イベントの参加など、楽しみながら活動をしているボランティア団体です。

全国トンボ市民サミット、県内の湿地サミット、三重県桑名市多度町八壺谷でのマメナシ保全などに参加しています。

また、守山自然ふれあいスクール実行委員会、なごやの森づくりパートナーシップ連絡会、なごビオの行事に参加しています。

令和5年度の活動について

- 4月：桑名市多度町八壺谷マメナシ保全応援
- 4月：小幡緑地本園のマメナシ観察会
- 5月：湿地サミット参加（瀬戸市 海上の森）
- 6月：環境デーなごや自然体験会（木工作）
- 6月：研修旅行（福井県 中池見湿地）
- 9月：桑名市多度町八壺谷マメナシ保全応援
- 10月：ハエトリグモの一斉調査（小幡緑地本園）
- 11月：現地フィールド訪問（八竜湿地）
- 12月：小幡緑地まつり参加



湿地の保全（9月）



自然観察会 樹木ラリー（11月）

活動団体の紹介

主な活動場所 小幡緑地本園内 湿地・マメナシ自生地

愛知守山自然の会

TEL/FAX：(052)711-3087 E-mail：norimameobata@yahoo.co.jp もしくは ryusenj2@outlook.jp

■例会の予定

【自然観察会】毎月第2土曜日 10：00～11：45（小幡緑地本園トンボの時計台前 9：45集合）

【保全活動日】毎月第2水曜日・第4日曜日 10：00～12：00 小幡緑地本園内（せせらぎ湿地・マメナシ自生地）

雨池ホテルの会

団体の目的・主な活動内容

名古屋市守山区御膳洞（ごぜんぼら）にある名古屋市立大森北小学校と道路を挟んだ隣に、ため池と公園が一緒になった名古屋市内で1,000番目に整備された「雨池（あまいけ）公園」があります。1998年5月末、会員の1人が散歩中に偶然ホテルを見つけました。その後、多くの人々が輝くように光る自然の神秘に心を動かされ、雨池周辺のホテル生息地の保全に立ち上がりました。

守山区役所での「守山自然ふれあいスクール」検討部会にも参加して、多くの人に雨池公園の自然の素晴らしさを理解してもらい、一緒に守ってもらおうと思っています。その他、桜並木やマメナシの保全活動、公園周辺のゴミ拾い、雨池の浮遊ゴミの除去、アシ刈り、花壇作りなど、地域の豊かな自然環境が育まれるように活動しています。

令和5年度の活動について

- 毎月第2及び第4土曜日の雨池公園周辺の清掃活動、「春の小川」の雑草除去と花壇の手入れを行いました。さらに秋から冬にかけてはヒメボタル生息地の雑草や木の枝を刈り取り、幼虫の生育を促しました。
- 大森北小学校の子ども達が描いてくれた啓蒙ポスターを周回路沿いに掲示しました。
- 3月に予定していた学区子ども会連合会や大森北小学校PTAと共催の「もちつき大会」は4年連続で中止となりました。
- 5月27日に「ヒメボタル観察会」を70名の参加で行いました。前日と直後も見られた多くの発光が、観察会時のみ鎮まり、「虫除け」技術の進歩を感じました。
- 8月26日には63名の参加で、「夏だ！元気にあそぼう会」を行いました。魚釣りをメインに楽しい半日を過ごせました。大物賞は体長27cmのヘラブナでした。



夏だ！元気に遊ぼう会（8/26）

活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋市立大森北小学校の学校隣接公園である雨池公園周辺

雨池ホテルの会

TEL：(052)798-2764 E-mail：tymmoka@gmail.com

■例会の予定：毎月第2及び第4土曜日、午前10時から

大高緑地湿地の会

団体の目的・主な活動内容

大高緑地湿地の会は、湿地復元活動を行う前は、毎月1回大高緑地を半日かけて、鳥や植物等の観察会を行っていました。その活動の中で、花木園が猛暑・少雨の夏でも水がコンコンと湧き出していた事と、水がしみ出しているところに東海地方固有の植物トウカイコモウセンゴケやシラタマホシクサが生えていた事で、この水を利用して消滅しつつある湿地を復元して、そこに生息する植物や昆虫を増やせないかと考えたのが活動のきっかけです。

活動は2000年頃からで、まず初めに大高緑地を管理している愛知県に湿地復元活動の趣旨説明や許可を得るための話し合いをしました。2002年に県から許可が下り、2003年から活動に入りました。

令和5年度の活動について

活動テーマの「東海の湿地植物と生き物たくさん」を実現するために年間活動内容（右表）を決めて、毎月第二日曜日9時から11時30分で、湿地の植物に十分な日光が当たるようにするための草刈り・落ち葉掻きをメインに行っています。また、湿地性の植物は他の植物と違って栄養状態が良いと育たないため、刈った草などは全て別の置き場に運んでいます。それ以外では、外来種のアメリカザリガニ・ウシガエルの駆除及びトンボのヤゴ調査と保護を行っています。



【主な活動内容】

1月	コモウセンゴケの丘の落ち葉掻きと刈り込み
2月	コモウセンゴケの丘の落ち葉掻きと刈り込み
3月	湿地上部・誘導路の草刈り
4月	冬鳥の餌場の草刈り
5月	シラタマホシクサ自生地の草刈り
6月	中央湿地の草刈り
7月	たまり池・導水路周囲の草刈り
8月	池のアシ刈り
9月	里山植物群落の草刈り
10月	コモウセンゴケの丘の草刈り
11月	シラタマホシクサ自生地の草刈りと種まき
12月	中央池の泥上げ

活動団体の紹介 主な活動場所 大高緑地内花木園

大高緑地湿地の会（代表：大主 順一）

TEL：(052)413-4435 E-mail：yoka1115@mediacat.ne.jp

■例会の予定：無し

尾張サンショウウオ研究会

団体の目的・主な活動内容

名古屋市内のオワリサンショウウオの水辺環境の整備と保全。この地方のオワリサンショウウオの保全について調査と協力体制をつくる。また情報の共有をする。オワリサンショウウオ以外にも、ニホンアカガエルやアズマヒキガエルの保全にも取り組んでいる。

令和5年度の活動について

令和3年度なごびオ両生類部会が発足したのをきっかけに、今まで行ってきた産卵地の整備や一斉調査を部会の活動として行なった。また、昨年に続き危機的な産卵地の個体群に関しては、幼生を一時的になごや多様性センター内の施設にて保護し、上陸直前で元の場所へ戻す活動を行った。その他、危機的な状況にあるアズマヒキガエルやニホンアカガエルの産卵状況の確認と、遺伝的多様性の把握も視野に入れながら調査を行なった。

活動人数約9人



活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋市内全域

尾張サンショウウオ研究会

TEL/FAX：(052)781-2595（瀧川 正子） E-mail：fwie6142@nifty.com（藤谷 武史）
takikawa-m@mtg.biglobe.ne.jp（瀧川 正子）

■例会の予定：不定期

滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会



団体の目的・主な活動内容

滝ノ水緑地は、名古屋市緑区にあり、約4.4haの雑木林の中に、小さなため池と湿地があります。この地域が市街化される前の原風景を残す貴重な場所です。

私たちは、1997年に「滝ノ水緑地公園愛護会」として活動を始めました。2010年からは「滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会」となり、緑のパートナーとして、名古屋市と協定を結びました。2011年には、滝ノ水緑地維持管理計画を作成して、滝ノ水緑地の植生および生態系を維持・再生するための活動をしています。

令和5年度の活動について

〈定例活動〉

- ・湿地：除草、笹刈り、除伐、湿地植物の保護と再生
- ・樹林地：おもに常緑樹の除伐、しがらみづくり、枯れ木の処理
- ・池：池に溜まる落葉の回収

〈イベント〉

環境デーなごや「身近な自然体験会」

- ・“森で木を伐って樹名板を作ろう”（6/19実施）
- ・学区小学校の3年生と観察会実施（R6年2月予定）

〈その他〉

- ・維持管理計画に基づき、名古屋市と協働で、専門家から保全状況の確認と活動へのアドバイスをいただいています。
- ・湿地の保全について、有識者から作業の実践を学んでいます。

活動団体の紹介

主な活動場所 滝ノ水緑地（緑区）

滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会

TEL：052-892-5546 E-mail：ya35827@yj9.so-net.ne.jp

■例会の予定：毎月第3日曜日 9：00～12：00（11月～3月は、10：00～12：00）（変更することがあります）

地球ハグ倶楽部

団体の目的・主な活動内容

【目的】

全ての生命をはぐくむ自然の中で、親子で遊ぶ。

「ハグ+コミュニケーション=ハグニケーション」という、ハグするようなあたたかなコミュニケーションを伝え広げる。自然体験を通して、まずは一番大切な自分自身、家族、お友達、自然とつながり元気になる。持続可能な社会のために、自分と家族とみんなと自然を大切にできる子供たちを育む。身近なつながりから世界を良くしていくことを目的としています。

【活動の3本柱】

- ・自然の恵みをとって食べる“美味しい”体験
- ・自然の素材で作って遊ぶ“楽しい”体験
- ・自然の神秘を五感で感じる“美しい”体験

【育みたい3つの力】

■自分を信じる力 ■大切な人を愛する力 ■自分と地球をハグできる力

令和5年度の活動について

「BeeHappy∞Project」5年目の活動 技術・知識の向上

第8回なごや生物多様性センターまつり

2023年4月～2024年3月／なごや環境大学 前・後期

農業事業（お米部）



活動団体の紹介

主な活動場所 愛知県中心

地球ハグ倶楽部

連絡はメールにてお願い致します。 E-mail：info@chikyu-hug.club

ウェブサイト：https://chikyu-hug.club/

■例会の予定：不定期（ホームページを参照）

中部蜘蛛懇談会

団体の目的・主な活動内容

- 目的：クモ類の採集、観察、調査、研究など
- 創設：1969年
- 会員数：72名
- 会誌「蜘蛛」年1回発行
- 通信誌「まどい」年3回発行
- 総会・研究発表会・懇親会：毎年2月11日（建国記念の日）
- 観察会（年4回）
- 三重クモ談話会および関西クモ研究会との合同観察会（随時）
- 合宿観察会（年1～2回）



なごや生きもの一斉調査での同定作業

令和5年度の活動について

（事業年度：4月～翌年3月）

- 主な活動
 - ・会誌「蜘蛛」を発行
 - ・総会・研究発表会・懇親会（2月11日、ウィルあいちにて対面形式で実施）
 - ・観察会（小幡緑地、大高緑地、猪高緑地、平和公園）
 - ・なごや生きもの一斉調査（ハエトリグモ編）
 - ・夏休み子ども観察会（八事山興正寺にて環境デーなごやとして）
 - ・三重県と合同観察会（岐阜県 明神の森）
 - ・ブース展示：環境デーなごや2023中央行事に出展など



カトウツケオグモ

活動団体の紹介 主な活動場所 小幡緑地、八事山興正寺、など

中部蜘蛛懇談会

TEL：(052)872-5853 FAX：(052)872-5853 E-mail：mail@ckumo.sakura.ne.jp

ウェブサイト：http://ckumo.sakura.ne.jp/ 《[中部蜘蛛懇談会]で検索》

○入会：子どもから研究者までどなたでも歓迎

○観察会の参加：会員以外でも参加自由・無料（開催日はウェブサイトに掲載）

東谷山湿地群保全の会

団体の目的・主な活動内容

私たちは名古屋市の最高所である東谷山（198m）周辺に残る東海丘陵要素型湧水湿地群の保全活動を行っています。この湿地群は過去より遷移による湿地性生態系の劣化を指摘されてきました。『この地域にしかない独特の生態系を残したい、この素晴らしい体験を未来に繋げたい』という思いで、2006年に県有林事務所と有志が保全活動を実施。2011年には有識者、県環境部、協力団体が中心となり当会が発足し活動がスタートしました。以後、県有林事務所と利活用協定を結び、保全活動と植生調査を継続させて頂いています。

東谷山湿地群は砂礫を含んだ粘土質であり、雨水の浸透を妨げることで貧栄養湿地（湧水湿地）を形成しています。このまま放置しておくと湿地は森林化し、希少な動植物と共に消滅します。

私たちは湿地を圧迫する要素を除去し、健全な東海丘陵型湧水湿地群の保全と動植物の保護を図ります。

- ・湿地内のヌマガヤや枯れ草を刈り取り、湿地外へ持ち出し富栄養化を防ぐ。
- ・周辺や湿地を覆う樹木を伐採し、集水域の確保と陽の光が差す明るい湿地を維持する。

令和5年度の活動について

- ・湿地保全活動：例会としてY湿地保全12回、N湿地保全12回実施。
- ・湿地動植物の記録：湿地性固有植物調査、会報『湿地だより』発行など。
- ・湿地周辺道路ゴミ拾い：投棄によるゴミを拾い、守山環境事業所へ引き渡し。
- ・守山ふれあいスクール実行委員会（守山区役所）参加。
- ・あいち生物多様性保全活動担い手養成講座9/22、10/24（県環境局主催）支援。



活動団体の紹介 主な活動場所 東谷山湿地群（Y湿地、N湿地など）

東谷山湿地群保全の会

E-mail：fuku.moriyama@gmail.com（福田）

■例会の予定：【東谷山Y湿地保全】毎月第一土曜日 9：30～12：00（東谷山散策道入口 9：30集合）

【東谷山N湿地保全】毎月第三水曜日 9：30～12：00（東谷山フルーツパーク第一駐車場 9：30集合）

中志段味の自然を次世代に伝える会

団体の目的・主な活動内容

才井戸流流域は将来『才井戸流湧水自然公園』（仮称）として今の自然をそのまま生かしながら生き物たちに触れられる公園になります。田んぼ跡の湧水ポイントから出る水と全域から染み出す水が、この流域の生き物たちを支えています。澄み切った川には「川モズク」が、河岸段丘の境目には「沢蟹」が生息しています。これらの自然環境保全とそこに生きる生物たちの繁殖を助けてやれるよう、湧き出る水と吹き上がる砂・河岸段丘の境目から染み出る水を大切に生かし、保全を実証しながら次世代へ永続的に継承するのが、私たち「伝える会」の活動です。



宮前湧水



スズカカンアオイ

令和5年度の活動について

- 古くから生活してきた近辺住民が、上段から投棄してきた家庭ごみ・畑の耕作資材ごみ、などを回収してきました。
- ヒメボタルのため、竹林整備も進めました。
- コツコツと継続的にヨシ・クサ、などを刈り、女性中心で片付け作業も進めました。
- 観察・調査・研究活動に参加・協力してきました。希少植物・コウモリ・苔・ホタル・ドジョウなど。
- 大型商業施設と互いの繁栄のために、環境保全のために、協力しながら環境交流を進めてきました。

活動団体の紹介 主な活動場所 才井戸流流域

中志段味の自然を次世代に伝える会

TEL : 080-6968-2327 E-mail : f-jin@yc5.so-net.ne.jp

■例会の予定：定例打合せ会／毎月第3土曜日 15：00～17：00
定例作業／毎月第1土曜日 9：00～11：00

「なごや環境大学」実行委員会

団体の目的・主な活動内容

なごや環境大学は、市民・市民団体、企業、教育機関、行政が協働でつくる、環境学習のネットワークです。「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える「人づくり・人の輪づくり」を進め、行動する市民、協働する市民として「共に育つ（共育）」ことを目指しています。

令和5年度の活動について

令和5年度は、多様なつながりを活かしつつ、SDGsや生物多様性をテーマとした事業を重点的に取り組んでまいりました。

衣食住から日本の伝統的なテーマをピックアップし、SDGsとの関わりを学ぶ「衣食住からSDGs～日本の伝統編～」等、SDGsに対する理解を深める講座を実施したほか、生物多様性を取り巻く国内外の動向や、名古屋市の事業者の取り組み紹介を通して、生物多様性について私たちにできる事を考えるシンポジウム「くらしの中のネイチャーポジティブ～私たちの選択～」を開催しました。

そのほかにも、森林環境譲与税を活用し、岐阜県御嵩町をフィールドとした「森を育む人づくり講座 in みたけ2023」の実施や、愛知学院大学、中部大学と連携した「SDGs普及啓発教育プログラム」など、人づくり・人の環づくりを意識した事業を実施しました。

<令和5年度の主な主催事業>

- 「衣食住からSDGs～日本の伝統編～」
- 「くらしの中のネイチャーポジティブ～私たちの選択～」
- 「生物多様性とサブカルチャーの世界」
- 「森を育む人づくり講座 in みたけ 2023」
- 「SDGs普及啓発教育プログラム」



活動団体の紹介 主な活動場所 まちじゅうがキャンパス

「なごや環境大学」実行委員会

TEL/FAX : (052) 223-1223 E-mail : jim@n-kd.jp ウェブサイト : <https://www.n-kd.jp>

公益財団法人 名古屋港緑地保全協会

団体の目的・主な活動内容

当協会は、豊かで快適な港湾環境を創出するため、名古屋港の臨港地区内及びその周辺の緑化を推進し、適切な環境保全に努め、名古屋港の発展と親しまれる港づくりに寄与することを目的に、緑化に関する調査や研究、緑化に関する思想の普及啓発、緑にふれあう機会と場を提供する事業などを行っています。

また、名古屋港の臨港緑地のうち15の施設を指定管理者として管理運営しており、維持管理で発生する刈草や剪定枝を原料に堆肥を製造し、臨港緑地の花木の育成に利用するなどの「緑のリサイクル」を実践するとともに、環境に配慮した循環型の緑地管理に努めています。

令和5年度の活動について

- 花の名前当てクイズ
- 富浜緑地わくわく体験教室
- 緑地見学会
- 園芸講習会「クリスマスの寄せ植えづくり」
- 刈草、剪定枝を原料とした堆肥の製造
- 堆肥の無償配布
- 伐採木無償配布（燃料として）



地域住民との協働 花の植栽



堆肥製造

活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋港の臨港緑地

公益財団法人 名古屋港緑地保全協会

TEL : (052) 659-0880 FAX : (052) 659-0628 Email : info@npgpa.jp

ウェブサイト : <http://www.npgpa.jp/> 富浜緑地(愛知県弥富市)では土日祝に木工教室など自然とふれあう体験教室を実施しています。

名古屋昆虫同好会

団体の目的・主な活動内容

この地球には様々な生物が暮らしています。その中で種数の約80%を占める昆虫は、その生活様式をそれぞれの棲息場所の環境に適応させて進化を遂げてきました。様々な昆虫がいることを知ることや、それらの昆虫が多様な生活をしていることを知ることなどは、私たちが自然を理解することの一つの入り口になります。そのような昆虫に興味を持った人々が集まった会が名古屋昆虫同好会です。

戦後間もない1949年に創立され、小学生から社会人、リタイア組みなど、地元名古屋を中心に、全国から300名以上の虫好きが入会しており、東海地方を中心とした全国の虫情報（データ・生態等）が掲載される会誌「佳香蝶」と、会員情報やよもやま虫談義などを掲載する連絡誌「NAPI NEWS」を、それぞれ年4回発行しています。

令和5年度の活動について

- 「佳香蝶」「NAPI NEWS」を、年4回3ヶ月ごとに発行
- 1月第3日曜日 特別講演会：イラストレーター・安斉俊 氏
- 2月～12月：毎月第2土曜日に月例会を開催
- 4月：ギフチョウ観察懇親会愛知県豊田市
- 6月・7月：夏季採集懇親会 in トヨタ白川自然学校
- 8月：夏季採集懇親会 in 開田高原



ライトトラップ親子採集会



夏採集会開田高原

活動団体の紹介

名古屋昆虫同好会（会長：間野 隆裕、事務局：戸田 尚希）

TEL : 090-3567-0672 E-mail : one.sheep.toda@gmail.com

ウェブサイト : <http://nagoyakondo.com/>

活動場所：毎月第2土曜 18：30より、中小企業振興会館（通称吹上ホールのある会館）4階で、卓話や情報交換、名前調べ会などの例会を実施しています。

名古屋産業大学現代ビジネス学部・大学院 環境マネジメント研究科 長谷川研究室

団体の目的・主な活動内容

身近にある自然環境の生物多様性を高めると共に、より生態系サービス（自然からの様々な恵み）が豊かな地域社会を作るための方法を探求しています。研究室のゼミだけでなく、エコレク部等の部活・サークル活動とも連携して、Web図鑑の作成、魅力的な散策ルートの開発、生物多様性に関するゲーム開発などを行っています。

令和5年度の活動について

里山や社叢などの伝統的緑地や都市緑地、都市公園を対象に、生物多様性、生態系サービスの実態把握とその評価手法の研究を行っています。

- 東海地方の社叢、日本庭園、湿地の調査
- 中部地方における菌従属栄養植物の生育環境調査
- 尾張旭市内主要緑地の動植物調査
- 名古屋市内公園緑地の植物相、植生調査及び保全活用状況の調査
- 瀬戸市内重要生態系の保全活動支援、植物調査



活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋市、尾張旭市、瀬戸市、東海地方の重要生態系

名古屋産業大学現代ビジネス学部・大学院環境マネジメント研究科 長谷川研究室

TEL : (0561) 55-5101 (大学代表) FAX : (0561) 52-0515 (大学代表) E-mail : y-hasegawa@nagoya-su.ac.jp

名古屋自然観察会

団体の目的・主な活動内容

名古屋自然観察会（正式名は、愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部）は、主に名古屋市内在住または在勤している自然観察指導員（（公財）日本自然保護協会による登録認定者）によって1982年に結成されました。現在の会員数は約100名です。主な活動場所は名古屋市内です。本会は、発足以来、身近な自然に親しみ、自然のしくみを理解し、自然を守るための自然観察会やそれに伴う環境保全活動などを実施しております。近年では、これらの活動と並行しながら、名古屋市環境局などと協力しながら、環境教育等の様々な活動を行っています。

令和5年度の活動について

- ①市内11箇所の緑地や公園などでその自然の特色を生かした自然観察会やネイチャア・フィーリングなどの特色ある自然観察会を年間を通して実施しました。また、5月に東谷山でふるさと親子自然観察会を実施しました。
- ②子供の自然体験と健全な発育を促すための“なごや自然教室”を4回実施しました。
- ③8月にエコバルなごやとその周辺を利用して、名古屋自然観察会設立40周年記念行事を実施しました。
- ④名古屋市やその近郊の身近な自然にふれるために、7月になごびオ主催の「サマースクール」を実施しました。また、10月には、なごや生物多様性センター主催の「センターまつり」にブース出展しました。
- ⑤名古屋市環境局の環境デーなごや実行委員会が主催する環境デー中央行事（9月）にブース出展しました。
- ⑥名古屋市内の幼稚園や保育園、小学校などへ環境サポーターを派遣し、名古屋市環境局のエコキッズ事業に協力しました。
- ⑦会員のスキルアップを目的とした研修会を1回実施しました。
- ⑧愛知県自然観察指導員連絡協議会が主催する様々な事業に参加・協力しました。
- ⑨機関紙「なんじゃもんじゃ通信」を6回発行しました。
- ⑩ホームページなどを通じて情報発信しました。

活動団体の紹介 主な活動場所 市内の緑地や公園

名古屋自然観察会

TEL : (052) 782-2663 FAX : (052) 782-2663 E-mail : takilin@sf.starcat.ne.jp

ウェブサイト : <http://www.nagoyashizen.net/>

■例会の予定 : 例会は実施していません（役員会は偶数月の第3日曜日）。



名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち

団体の目的・主な活動内容

ヒメボタルを絆として、温かい心のつながりが広がるのが願いです。1975年にお堀電車の駅員だった竹内氏が、ヒメボタルの大発生を発見し、その後専門家の指導のもと保護活動をされていました。氏ご逝去後、家族・知人等で受け継ぎ、その輪が縦や横に広がっています。ホタル発光の時期は、毎晩ホタルの数を数えたり、人々をご案内したりしています。「外堀は空堀で、ヒメボタルは陸生」「都会の真ん中のお城にヒメボタルが自然発生していることは大変貴重であること」等正しい情報発信をするため、ブース出展やステージ発表・お話し会等を行っています。専門家の方のご指導を受けて調査も行います。市と外堀の草刈り等管理方法を相談したり、清掃も行ったりしています。歌や絵本を作る・写真を撮る等、一人一人が自分のできることで活動をしています。



外堀掃除

令和5年度の活動について

- 本年度は、コロナ5類となったこともあり、マスコミ等の取材も少しずつ受けさせていただき、慎重に発信も行いました。北土木事務所さんと相談しつつ現地の安全確認で危険と思われる箇所はすぐに対応していただき安全確保に努めました。
 - ・コロナ禍を考慮した発信法として、しおりに代わって腕章とメンバーのスマホにQRコードをつけて人々のご案内
 - ・コロナ禍以前のように、ホタル発光の時期、毎晩23時頃～2時頃、ホタルの数を数え毎日HPにUP、人々のご案内をしました。
 - ・現地へは例年通り4月～6月上旬深夜、メンバーの一部が出かけて、安全確認とホタルのカウントを行い、貴重なデータを残すことができました。
 - ・本年度のヒメボタルは、なんと！観測史上最高のトータル2万匹超え（21370頭）でした。
 - ・本年度は、4月24日初見・5月20日がピーク・6月3日が最終でした。ピークの頭数は3432頭ほど。（年によって多い少ないはあります）。昨年度は、4月27日初見・5月23日ピーク・6月1日終了。
 - ・外堀清掃を行いました。コロナ対策を行いながらたくさんのごみを拾いました。
- 今年は気象が異常といえる感じで、梅雨入りも平年より一週間ほど早く、その中でホタルは命をつなぐために一生懸命だと思えます。こうして自然を生き抜いてきた一つ一つの命の重みを感じています。小さな輝きから大きな力と優しさももらっている気がします。ありがとうございます！

活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋城外堀（外堀通沿）

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち

TEL/FAX：なし E-mail：meijo_himebotaru_kanbu@googlegroups.com
 ウェブサイト：https://sotobori.amebaownd.com/
 ■例会の予定：不定期

名古屋市立大学大学院理学研究科附属 生物多様性研究センター

団体の目的・主な活動内容

名古屋市立大学では、2009年度末に、生物多様性に関して多様な研究を行うとともに、啓発活動を継続的に行う研究センターを設立しました。本研究センターでは、「生物分類」「生物進化」「生物地理」「生態適応」「遺伝子資源の探索」「希少種の保全」など幅広いテーマで、生物多様性の理解と生態系の保全を目指して研究を進めています。また、生物の学名を遺伝子から特定できるシステムを作ろうという国際的取り組み（DNAバーコーディング）に携わり、東海地方の動植物や東南アジアの魚類など、様々な生物の標本とDNAデータを収集するとともに、それらの進化や保全などに関する研究を行っています。御興味をお持ちの方はどうぞ見学に来てください。

令和5年度の活動について

多くの方々のご協力のもとに、愛知県を中心に昆虫類・貝類などの標本収集を行いました。これらの標本からミトコンドリアDNAの塩基配列決定を行い、DNAバーコードライブラリーを作成するとともに、MIG-seq法などを用いた系統解析を行いました。さらに、学外の共同研究者とともに、名古屋市及びその近郊の植物について遺伝的類縁性を解明する研究も実施しました。アウトリーチ活動では、名古屋市立の3高校や愛知県立明和高校の生徒・教員を対象に、生物多様性に関する体験実習を実施したほか、DNA解析を通して明和高校SSH部の研究活動をサポートしました。一方、インドネシアとタイの魚類の多様性の解明を目指した国際共同研究にも取り組みました。



活動団体の紹介

名古屋市立大学大学院理学研究科附属生物多様性研究センター

TEL：(052) 872-5851 E-mail：biodiv@nsc.nagoya-cu.ac.jp
 ウェブサイト：http://www.nsc.nagoya-cu.ac.jp/biodiv/
 ■例会の予定：なし

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会

団体の目的・主な活動内容

名古屋の自然を守り、育て、ふれあい、学び、後世に継承することをめざし、加盟団体間の連絡を円滑にし、お互いに協力しあうことにより、各団体の活性化を図る目的で設立されました。

令和5年度の活動について

- 令和5年度の加盟団体数：森づくりを楽しむ27団体が加盟
- 定例会の開催：偶数月 第2金曜日10：00～ 定例会の開催
奇数月 第2金曜日10：00～ 幹事会の開催
- フィールド訪問の開催
加盟団体の活動日に現地を訪問し、研修会を兼ね課題の共有化を図る目的で、10月26日に「水源の森と八竜湿地を守る会」、1月31日は「名東自然倶楽部」のフィールド訪問を実施しました。
- テーマ協議
定例会にて「なごやの森づくりガイドライン（案）平成24年7月」の各章を読み解き、ガイドライン改訂に向けて活動状況や課題点などを共有しました。
- スキルアップのため講座へ参加
森づくり活動のために必要な道具の取扱いや安全対策等を改めて学ぶ機会として、2月4日に名古屋市緑化センターにて行われたなごや環境大学主催のスキルアップ講座を受講しました。
- 広報の充実
森づくり活動を広報するために、パネルを作製し外部出展時に展示しました。
- その他
名古屋市主催の「森づくり体験会」を5個所の緑地で実施しています。
9月16日環境デーなごや中央行事にブース出展しました。
10月28日なごや生物多様性センターまつりにブース出展しました。
なごビオの活動に関する情報を発信しています。



環境デーなごや出展



フィールド訪問

活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋市内の緑地

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会

(事務局) TEL：(052)731-8590 FAX：(052)731-0201
ウェブサイト：http://www.nga.or.jp/moridukuri_partnership/
《「なごやの森づくりパートナーシップ連絡会」で検索》

■例会の予定：偶数月 第2金曜日 10：00～定例会の開催、奇数月 第2金曜日 10：00～幹事会の開催

NPO法人 なごや東山の森づくりの会

団体の目的・主な活動内容

「東山の森」に親しみながら森を学び、森の保全と再生を目指して森づくりをしています。

いのち輝く森を次世代につなげようと活動をしています。
雑木林・湿地・竹林の手入れ、森の観察・案内、森の調査、ソバ班、畑班、田んぼ班など里山くらし体験活動も盛んです。

令和5年度の活動について

定期的な活動は、定例森づくり活動と12の班活動で、雑木林・湿地・竹林の保全活動、子ども森づくり活動、田んぼ、畑、調査活動などです。両生類の生息地保全活動、そして2021年から立ち上げた「なごや東山の森 水辺・湿地保全再生プラン」ができました。埋もれた湿地・水辺の再生に着手します。

また、協働・連携活動として、なごビオの東山新池の移入種スイレンの除去活動と水草の希少種の保全活動、森の希少種保全と調査活動、なごやの生きもの一斉調査。日本野鳥の会愛知県支部と猫ヶ洞池のヨシ原再生・ゴミ拾いワークショップを実施しました。

活動日数 376回、活動人数延べ4,280人



水辺の整備活動



里山の森保全活動

活動団体の紹介 主な活動場所 なごや東山の森

NPO法人 なごや東山の森づくりの会

TEL/FAX：(052)781-2595 E-mail：nh_morizukuri@higashiyama-mori.sakura.ne.jp
ウェブサイト：<http://www.higashiyama-mori.sakura.ne.jp/>

【定例森づくり】 活動参加費：会員／無料・一般／200円
活動日時：毎月第1日曜日 9：30～12：30
集合場所：毎回異なります
活動場所：奇数月／いのちの森・うるおいの森（東山公園南部）
偶数月／くらしの森（平和公園南部）

NPO 法人 日進野菜塾

団体の目的・主な活動内容

都市農地の遊休地の活用方法を考えることから始まり、生きものとの共生、自然を守る観点から有機農法を選び、日本の伝統文化を学び、命がつながっていく営みを知り、命の大切さを知る、そんな場にしたいと考え、農体験教室、生きもの観察教室を行っています。子供の食育、環境教育、都市住民の農への理解、自然体験の楽しさ・魅力を日々発信続ける場となることを希望しています。又、地域の子育てNPO、介護・障がい者団体等との農を生かした連携も進めています。栽培は、農薬や化成肥料を使いません。

令和5年度の活動について

- ① 農業体験農園（指導付き農園）毎週土曜日（講義と実践）
- ② ダンボール生ゴミコンポスト講座、落ち葉たい肥講座、味噌作り講座
- ③ 田植え、稲刈り、ハーブ教室、ミカン剪定収穫、収穫感謝祭、もみ殻燻炭作成、餅つきなど開催。



活動団体の紹介

主な活動場所 日進市本郷

NPO 法人 日進野菜塾

TEL : 090-5443-1518

FAX : (052) 934-7207

E-mail : info@n-yasaijuku.com

ウェブサイト : <http://n-yasaijuku.com/>

■オンライン定例会：第二日曜日 18:00~19:00

日本カメ自然誌研究会

団体の目的・主な活動内容

本会は、カメの自然誌に関心のある研究者・ナチュラリスト・愛好家の交流・親睦・情報交換を目的とし、1998年に発足した研究会です。生息環境の破壊の影響で減少しつつある自然（野生）のカメと人との、良い関係を保つためにはどうすればよいのかを、みんなで考えています。交流のため年に一度「日本カメ会議」を開催しています。また在来のカメの保護や外来のカメの防除に関する、行政などの機関からの調査の要請も請け負っています。なごびオが発行した「ミシシッピアカミミガメ防除マニュアル」は本研究会が監修しました。

令和5年度の活動について

- ・ 3月4日～5日に龍谷大学で「第22回日本カメ会議」、11月26日に保見交流館で矢部隆博士還暦記念講演会を開催しました。
- ・ なごびオの動物調査と保全対策部会の一員として、市内のカメ類の生態調査や外来カメ類防除を実施しました。また、カメの繁殖や保全について技術的な協力を行っています。
- ・ 観察会やフェイスブックなどでカメに関する情報を発信しています。



活動団体の紹介

主な活動場所 その都度検討

日本カメ自然誌研究会

TEL/FAX : (0565) 35-8373

E-mail : chelonian-japan@googlegroups.com

ウェブサイト : <https://chelonian-japan.cocolog-nifty.com/>

フェイスブック : <https://www.facebook.com/kamesizensi/>

■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）



日本野鳥の会愛知県支部

団体の目的・主な活動内容

日本野鳥の会は1934年（昭和9年）に創設され、全国に90の支部があります。愛知県支部は本部創設の4年後1938年に中京支部として誕生し今年で86年を迎えます。活動の柱として野鳥を通して自然の大切さ、楽しさを知ってもらう普及活動、野鳥とその生息域を守るための保護活動、生態や生息数等を調べる調査活動があります。

そのうち普及活動の一つ、探鳥会は一般の方に野鳥観察の楽しさを知ってもらうため、会員以外の方も参加できます。また、参加の予約や費用も必要ありませんのでお気軽にご参加下さい。探鳥会の詳細はHP又は毎週中日新聞、朝日新聞に掲載しています。詳しくは事務所（末尾参照）へ問い合わせして下さい。



探鳥会の様子

令和5年度の活動について

本年度に限らず次のような活動を継続して行っています。

- 1) 普及活動
探鳥会：年間140回以上 参加者はおよそ2600名
愛知県弥富野鳥園野鳥観察指導、バードウィーク写真展開催、小学校における環境学習の手伝い
- 2) 保護・調査研究活動
愛知県定点調査（県内22箇所、40年以上継続中）、カワウ調査 8箇所、サギ調査（東名阪弥富・蟹江インターチェンジ）、コアジサシ調査 県内全域、木曾岬干拓地猛禽類調査

活動団体の紹介 主な活動場所 各地

日本野鳥の会愛知県支部

住所：〒462-0844 名古屋市北区清水五丁目10-8 グリーンフェロー 3A
TEL/FAX：(052)912-9531 E-mail：front@wbsj-aichi.org ウェブサイト：http://wbsj-aichi.org
■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

日本ワシタカ研究センター

団体の目的・主な活動内容

愛知県尾張旭市にある日本ワシタカ研究センターは猛禽類の保護を实践するために1982年に設立されました。その後、国内外の専門家や団体、行政機関とも連携しながら、猛禽類に関する基礎研究、希少種の生息状況把握、開発地域での希少種保全対策の提言や実施、伝統的な日本の鷹狩技術も利用した傷病鳥救護活動、国際会議や研究会での成果発表、猛禽類保護に関する講習会の開催などに取り組んでいます。2022年には国際自然保護連合（IUCN）への加盟が承認されました。

令和5年度の活動について

年間を通じて実施した活動

- ・岐阜県、三重県、滋賀県内で観察を継続しているイヌワシ、クマタカ、オオタカ、サシバ、ミサゴの生息地で繁殖状況等を確認。
- ・愛知県内で傷病により保護されたオオタカやハヤブサを行政機関の依頼に応じて収容。
- ・岐阜県、福井県、静岡県内での各種工事に関連して実施されている事業者による希少種生息状況調査の結果確認と相談事項への対応。
- ・IUCNの生態系管理委員会によるテーマ別グループ「生態系の持続的な利用と管理」の活動にグループの共同代表として協力。

その他の活動

- 10月28日 第8回なごや生物多様性センターまつりに出展し、傷病猛禽類の保護活動について紹介。
- 11月14～16日 行政機関の野生鳥獣関連業務担当者を対象とした傷病猛禽類保護に関する講習会を開催。
- 11月23日 鷹狩の技術も利用した傷病猛禽類の保護活動について米国で開催された北米鷹匠協会の総会で講演。
- 1月4～5日 チュウヒ類の越冬期個体数全国一斉調査に協力。



活動団体の紹介 主な活動場所 愛知県尾張旭市および中部地方の猛禽類生息地

日本ワシタカ研究センター

TEL：(0561)54-8066 FAX：(0561)54-8096 E-mail：jfc-office@tg.commufa.jp
ウェブサイト：http://www.jfcenter.org
■例会の予定：なし

花水緑の会

団体の目的・主な活動内容

2002年「花水緑の公園通り」と命名した公園を結ぶ道路を花一杯にするまちづくり運動としてスタートし、公園予定地を開墾して種から育てる花づくりに挑戦する会として発足。緑区内13か所で、「花と緑」をキーワードにしたまちづくり・緑づくりのグループです。

令和5年度の活動について

各部会に分かれて独自に活動中。

【定期活動】

- ・春の種まき（3月末から4月）マリーゴールドなど。ポット移植（5月）
- ・初夏の花苗植え込み（6月）街路樹植えマス・公園花壇など
- ・秋の種まき（9月）パンジー・ノースポールなど。ポット移植（10月）
- ・秋冬の花苗植え込み（11・12月）

本年は夏の猛暑など異常な天候で例年のような苗の生育ができず、苦勞しています。

【年間を通しての活動】

各部会担当街路樹植えマス・公園花壇などの清掃・除草・水遣り等の維持管理。大高緑地の竹林・雑木林の保全・整備と竹炭づくり・ササユリ自生地の保全活動。

【イベントなどの参加】

緑区クリーンキャンペーン・緑区区民まつり・なごや生きもの一斉調査2023（大高緑地・新海池公園）・なごや生物多様性サマースクール2023・環境デーなごや2023 身近な自然体験会【大高緑地（大高竹の会）】・【新海池公園（チームなる花）】鳴子中央公園（鳴子きずなの会）でのイベント。



セルに種まき



こもれび広場の花壇



鳴子中央森 落葉プール

活動団体の紹介

主な活動場所 新海池公園こもれび広場・大高緑地・扇川公園・鳴海赤松東公園・扇川緑道・上ノ山公園・鳴子中央公園・なるばーく・水広街路樹・梨の木公園・亀が洞街路樹など

花水緑の会

TEL：(052)625-3878 FAX：(052)623-8191（緑区区役所地域力推進室）

E-mail：a6253871@midori.city.nagoya.lg.jp

■例会の予定：各部会により設定

隼人池を美しくする会

団体の目的・主な活動内容

地域住民に愛される公園にしたいと、活動をスタート。公園や池の清掃や除草などの手入れ、池に流入する雨水や湧水の汚れの除去などを定期的に行っている。平成21年には名古屋ため池生物多様性保全協議会と協働で、市民とともに隼人池で池干しを行った。池干しでとれた外来の魚やカメ等を取り除いた。

令和5年度の活動について

地域の憩いの場として、隼人池の自然をみんなで守り育てたいと考え、日々取り組んでいる。

①定例活動

公園・池の清掃を定期的に行っている。

②その他活動

防災訓練他、年に数回あり。

③池干し

なごジオとの協働で隼人池の池干しを行った。



隼人池の生きものを観察する子どもたち



芋煮会



池干し

活動団体の紹介

隼人池を美しくする会

TEL：090-4468-0500（代表：加藤 昌平）

ビオトープ・ネットワーク中部

団体の目的・主な活動内容

当団体は、「ビオトープ管理士」を中心とした組織で、東海地区および周辺のビオトープに関心のある方々が参加しています。会員の動機はさまざまですが、将来の世代により良い環境を継承していきたいとの思いは共通です。特定の活動フィールドは持たず、自然環境の保護・保全・再生・創出に資する講演や講座の実施や、環境団体や企業活動へのアドバイスや支援を依頼に応じて行っています。

近年では、持てる知識や技術をもって、環境教育の指導者としての役割も果たし、教育現場はもとより、企業におけるSDGs推進など、さまざまな面で活動・提案を行っています。



モウソウチクによるメンマづくりの様子

令和5年度の活動について

昆虫調査…

農業文化園・戸田川緑地（名古屋市）において、なごや環境大学の共有講座として、7～8月に親子による4回の昆虫調査を実施しました。午後には、昆虫標本作製についての実習も行いました。他にもライトトラップ調査などを行い、「なごや西の森づくり」によって創出された“とだがわの森”周辺の昆虫相について調査しました。

日本ビオトープ管理士会との共催研修会の実施…

5月6日及び13日に、つくラッセル（豊田市）において、「外来種のモウソウチクを食べて減らす実習体験」を行いました。モウソウチクによるメンマづくりに取り組んでいる竹々木々工房と連携し、実習体験をしました。11月25日には、おかざき自然体験の森（岡崎市）において、「秋の里山林で森林セルフケア」を行い、森林から得られる「癒し」効果をセルフケアに活用する方法を体験学習しました。

学校・園庭ビオトープの支援…

（公財）三菱UFJ環境財団による学校ビオトープづくりに協力し、名古屋市内の幼稚園での園庭ビオトープづくりの設計・施工のアドバイスをを行いました。また、（公財）日本生態系協会主催の全国学校・園庭ビオトープコンクールに協力し、現地調査や学校・園庭ビオトープづくりへのアドバイスをを行いました。

活動団体の紹介

主な活動場所 東海地区（依頼があればどこでも）

ビオトープ・ネットワーク中部

E-mail : unendo1091@yahoo.co.jp

ウェブサイト : <https://ja-jp.facebook.com/biotopyubu/>

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会

団体の目的・主な活動内容

藤前干潟の保全ならびに干潟環境の重要性についての啓発をすすめ、さらに広く伊勢・三河湾流域圏の環境再生・持続可能な社会実現をめざす。

令和5年度の活動について

・主催事業

「干潟の学校」

「ガタレンジャー養成講座」

「ガタレンジャー」r.

「藤前フォーラム」

環境省・名古屋市等との共催事業

・各種団体・学校等からの依頼による体感学習

・環境イベント等への出展

・環境省の委託による「稲永ビジターセンター」「藤前干潟活動センター」の運営等

主催・委託等含めてコロナ以前の状況にほぼ戻ってきました。海岸部の釣りゴミ問題や藤前地区への公共アクセス問題など、解決すべき状況が多くあるのでねばり強く解決に向けて活動を続けます。



活動団体の紹介

主な活動場所 藤前干潟周辺

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会

TEL : 080-5157-2002 FAX : なし E-mail : info@fujimae.org

ウェブサイト : <https://www.fujimae.org>

■例会の予定 : 理事会毎月1回（不定期）・総会年1回

三河淡水生物ネットワーク

団体の目的・主な活動内容

2008年2月に設立し、愛知県を中心とした爬虫両生類、魚類、貝類、水生昆虫類などの淡水生物とそれに関わる鳥類などの生物、ならびに、河川に関わる大学や水族館・博物館、行政などの関係者や研究者（アマチュアを含む）によって構成されたネットワークグループです。「研究者間の情報交換と交流の場の創出」、「水辺生態系保全に向けた、正確なデータの収集と提言」、「市民への啓蒙と情報の発信」、「次世代の研究者育成」を目的に、年4回の会合では専門家による話題提供のほか、情報や資料の交換、標本の同定や各々の関わる事業への相互協力など。フィールドでは調査による水生生物相の把握と同時に、希少生物や外来生物の生息データの収集・蓄積。また、より多くの方に、楽しく気軽に生き物や水辺環境に関心を持って頂けるよう、水族館や博物館への展示協力、観察会やシンポジウムの講師、研究発表、研究会誌や博物館館報への投稿など、広く情報を発信しています。そのほか、図鑑をはじめとする出版物への写真の提供や協力も行っています。



ドジョウ調査

令和5年度の活動について

ネットワークの会合も再開し、なごビオ・水辺の生きもの部会の部会員として、また専門家として、名古屋市内の池干しや水生生物の調査等に関わっています。名古屋市のドジョウ調査も継続して行なっていきます。向井貴彦・浅香智也・鳥居亮一・宇地原永吉. 2023. 名古屋市におけるドジョウのmtDNAの系統と分布. なごやの生物多様性, 10: 81-86.

活動団体の紹介 主な活動場所 愛知県全域

三河淡水生物ネットワーク

E-mail: fw-life@katch.ne.jp

ウェブサイト: <http://freshwaterlife.g3.xrea.com>

■例会の予定: 不定期

名東自然倶楽部

団体の目的・主な活動内容

主に、猪高緑地の保全活動を行っています。その目的の為の活動を9つのグループがそれぞれの分野で行なっています。

- ①里山保全グループ…猪高緑地内の竹林管理、植物保護などの保全活動を行っています。
- ②田んぼグループ…復元した棚田で、一年を通した「コメ作り」を体験してもらいます。
- ③炭焼きグループ…猪高緑地で増えすぎている竹を伐採し、竹炭を焼いて、有効利用しています。
- ④自然観察グループ…名東区内で自然観察会を開催し、自然豊かな緑地の魅力を伝える活動をしています。
- ⑤総合学習グループ…主に、近隣の小中学校の総合学習の時間で環境学習に協力しています。
- ⑥竹クラフトグループ…猪高の竹で竹トンボ等の竹玩具や道具を作って有効利用しています。
- ⑦調査グループ…緑地の保全の為に、生物、地形、水質の調査や保護活動を行っています。
- ⑧畑グループ…里山景観を残しつつ、有機・無農薬の野菜作りを学びます。
- ⑨水の環グループ…猪高緑地の水環境の保全を図ります。



谷地田で田植え

グループ単独のみでなく、各グループが連携して、全体活動やイベントの運営を行っています。

令和5年度の活動について

活動の一覧は右記 Web ページを参照願います。 <http://sizen.ciao.jp/schedule/2023record240331.pdf>



活動団体の紹介 主な活動場所 猪高緑地 (名東区)

名東自然倶楽部

E-mail: k-takagi@zd6.so-net.ne.jp

ウェブサイト: <http://sizen.ciao.jp/>

■例会の予定: 全体活動日 毎月第1土曜日 9:00~12:00、各グループの活動日はホームページを参照願います。



もりづくり会議



団体の目的・主な活動内容

わたしたちは、身近な森である鎮守の森をよりよく保全するため、またその方法を検討してくために、千種区の城山八幡宮を主なフィールドとして活動をしています。小規模な会ですが、みんなで案を出し、様々な企画をわきあいあいと行っています。もりの保全活動を通じてつながる、人の輪づくりも大切にしています。お気軽に活動を見に来てください。

令和5年度の活動について

本年度に限らず、今までの活動について紹介します。

月1回、定例会議と定例活動を行っています。定例活動の主な内容は、基礎的な活動として、清掃、シュロ・ササ等の除伐、枯れ枝払い、樹名板の製作と設置等を行い、季節的な活動として、アベマキ、アズキナシ、カマツカ等の苗木作り、希少種の観察会、クラフト作成などを行っています。年末の忘年会では、メンバー自作のゲームやプレゼント交換などを楽しみながら一年の活動を振り返ります。これまでに、なごや生きもの一斉調査のクモ編（2023年）、陸貝編（2022年）、テントウムシ編（2021年）、くつつき虫編（2019年）、アリ編（2018年）、淡水貝編（2017年）、カマキリ編（2015年）や陸貝編（2012年）にも参加してきました。

2019年からは、城山八幡宮をはじめ、城山・覚王山地区に残る鎮守の森や斜面林の植生調査を行い、在来種や希少種の保全活動に力を入れています。2022年には茶屋ヶ坂公園の希少種が残るエリアの保全活動を行い、経過観察をしています。

活動団体の紹介

主な活動場所 城山八幡宮 ほか城山・覚王山地区内の樹林地

もりづくり会議

E-mail : morikaigi66@gmail.com

■例会の予定：月1回、定例会議と定例活動

名城大学野生動物生態研究会

団体の目的・主な活動内容

名城大学農学部生物環境科学科・環境動物学研究室の附属サークルです。水生生物部門、鳥部門、哺乳類部門、昆虫部門の4グループに分かれて活動しています。多様なフィールドワークを通じて、卒業研究などで必要になるデータの取り方、扱い方を楽しく学ぶことができます。なごビオをはじめとする環境保全団体と協力しながら活動しています。

令和5年度の活動について

水生生物部門：カワバタモロコの域外保全、河川・ため池調査（植田川月例調査など）

鳥部門：名古屋市および遠征地での探鳥会、バードソンへの参加、ねぐら入り調査

哺乳類部門：守山リス研究会の定期調査への参加、仮剥製作成

昆虫部門：名古屋市市内での探虫会、標本作成、なごや生物多様性センタービオトープの昆虫調査



水生生物部門



哺乳類部門



昆虫部門



鳥部門

活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋市周辺

名城大学野生動物生態研究会

Twitterアカウント：@yamonken_abms

■定例会：名城大学N324で月末の火曜日12：30～13：00

矢田・庄内川をきれいにする会

団体の目的・主な活動内容

きれいにする会は昭和49年12月27日に結成（会則は翌年5月制定）されました。当時の日本は高度成長期の真っただ中であり、水も大気も汚れるのが当たり前の時代でした。その時、きれいにする会は「庄内川水系を汚すすべての汚染源に対し、きれいで快適な生活環境をとり戻し、次代へ引きつぐ」ことを目的として掲げ、活動を開始しました。

令和5年度の活動について

- ・名城大学附属高等学校との連携による投網講習会の開催（5月）
- ・「第18回身近な水環境の全国一斉調査」の水質調査に参加（6月）
- ・才井戸流れ水質調査（7月）
- ・矢田川・魚道調査の実施（7月）
- ・矢田川・バープ工調査の実施（8月）
- ・環境デーなごや2023に出展（9月）
- ・名城大学附属高等学校との連携による「庄内川河口・二枚貝調査」の実施（10月）
- ・「第49回庄内川まつり 魚釣り大会」の開催（11月）
- ・SNSやYouTubeを通じた普及・啓発活動



第49回庄内川まつり 魚釣り大会



庄内川河口二枚貝調査

活動団体の紹介

矢田・庄内川をきれいにする会

TEL：(052)794-3876 FAX：(052)796-2344 E-mail：yadashounai@gmail.com

■例会の予定：4月総会、以降不定期に役員会開催

山崎川グリーンマップ

団体の目的・主な活動内容

都市河川である山崎川は、まわりの都市化と開発のため、戦後80年の間に大きく環境が変わりました。特に西暦2000年代に入ると、人が放流した外来種のために、本来の生態系が崩れ始めました。山崎川グリーンマップは2008年より、ミシシippアカミガメやカダヤシなどの外来種の防除を続けています。

近年の夏の猛暑と頻回の護岸工事、2026年に開催予定のアジア大会に向けての周辺の工事は、山崎川の環境に大きな影響を与えていると思われます。しばらく注意深く様子を見ていく必要があります。

令和5年度の活動について

- ① 4月8日（土） なごや環境大学共有講座
山崎川護岸の陸貝観察
- ② 5月22日（月）～23日（火）夜間
瑞穂公園周辺のヒメボタルの生息調査
- ③ 5月27日（土） なごや環境大学共有講座
山崎川の生きもの観察会
- ④ 6月19日（月） 汐路小学校4年生のための環境教育出前授業
- ⑤ 7月22日（土） 夏休み山崎川生きもの観察会
- ⑥ 10月21日（土） なごや環境大学共有講座
山崎川と周辺の野鳥観察会
- ⑦ 5月3日・7月17日・9月23日・10月15日
山崎川の生きもの調査



6月19日 瑞穂区汐路小学校での環境授業



7月22日 夏休み山崎川生きもの観察会

活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋市内瑞穂区の山崎川

山崎川グリーンマップ

TEL/FAX：(052)841-6048 E-mail：a-ohya@sc.starcat.ne.jp

ウェブサイト：<http://www1.m1.mediacat.ne.jp/a-ohya/>

■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

四日市大学

野生動物保全学研究室(野呂研究室)

● 団体の目的・主な活動内容

当研究室では、地域における動物の分布状況や生息環境を把握するためのモニタリング手法を習得するとともに、外来種や害獣の防除、在来種の保全について実践的に学んでいます。

対象として、哺乳類、爬虫類、両生類、魚類など多様な動物群を扱っています。主に三重県北勢地域を活動の場としていますが、愛知県在住の学生も多数在籍しているため、同地域での活動にも積極的に参加しています。



● 令和5年度の活動について

本年度は研究室に所属する学生が以下の卒業研究を行いました。「地域ネコの餌場におけるイエネコの個体群構造」、「モグラ類の体サイズ比較とその要因」、「すり鉢池におけるアメリカザリガニ駆除の費用対効果について」、「四日市大学および北勢中央公園における地表徘徊性甲虫相の比較」、「ゴルフ場とその周辺の動物相に関する研究－品野台カントリークラブを事例として－」、「庄内川水系内津川におけるコクチバスの探索」、「農業用水路の水位変動による魚類相の変化」。

その他、10月28日に開催された「なごや生物多様性センターまつり」に参加し、モグラ類の標本や魚類の生体、学生の研究内容を紹介したポスターを展示しました。

● 活動団体の紹介

主な活動場所 三重県、愛知県

四日市大学 野生動物保全学研究室(野呂研究室)

TEL : (059) 340-1632 FAX : (059) 365-6630

E-mail : noro@yokkaichi-u.ac.jp

ウェブサイト : <https://www.yokkaichi-u.ac.jp/faculty/environment.html>



「なごや市民生きもの調査員」募集中！

なごや生物多様性保全活動協議会や会員団体が行う生物調査や
講習会、イベントなどの情報をメールでお届けします。
どなたでも登録いただけます。詳しくは協議会ウェブサイトまで。



令和5年度 なごや生物多様性保全活動協議会 活動報告書

発行年月 令和6年4月

発行 なごや生物多様性保全活動協議会

(事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター内)

〒468-0066

愛知県名古屋市天白区元八事五丁目230番地

電話 052-831-8104 FAX 052-839-1695

ウェブサイト <http://www.bdnagoya.jp>

※本書掲載内容の無断転載は固くお断りします。